



# 4章 アプリケーション について

- 1 複数のユーザで使うとき ..... 152
- 2 アプリケーションのヘルプを開く ..... 154
- 3 アプリケーションの追加と削除 ..... 156

# 1

## 複数のユーザで使うとき

複数のユーザで使用する場合、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

参照  複数のユーザで使用する  『オンラインマニュアル』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○*1		○	○
The翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○*2
PostPet		○	○	○*2
東芝コントロール		○	○	
Easy CD Creator	○		○	○
KaraOK !	○		○	○
LaLaVoice	○*3		○	○
デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)		○		
Motion DV STUDIO		○		○*2
駅すばあと	○		○	
Norton AntiVirus 2002	○		○	○
DirectCD		○		○*2
東芝PC診断ツール		○		○*2
東芝HWセットアップ	○			—*4
東芝省電力ユーティリティ		○	○	—*4
Fn-esse	○		○	○
ネットメニュー	○		○	○
Bluetooth 東芝ユーティリティ		○		○*2
いきなりインターネット (Infopepper)		○		○*2

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
AOL6.0	○			○
DION 簡単設定ツール		○	○	○*2
OCN サインアップ		○		
So-net 簡単スターター		○	○	○*2
@niftyでインターネット		○		○*2
ODNダイヤルアップ スターターキット	○		○*5	○
DreamNet		○	○	
BIGLOBEサインアップナビ	○			○
ぷらら	○		○	○
TTnet	○		○	○
InfoSphere		○		
eAccess	○		○	○

\* 1 制限アカウントはダイヤル方式の設定はできません。

\* 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。

\* 3 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。

\* 4 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。

\* 5 【ユーザアカウント】のオプションにて【ユーザの簡易切り替えを使用する】を設定している場合のみ、可能です。

# 2

## アプリケーションのヘルプを開く

アプリケーションの操作方法や、アプリケーションでできることを調べる場合は、ヘルプを使います。アプリケーションのヘルプには、いくつかの種類があり、それぞれ起動方法が異なります。

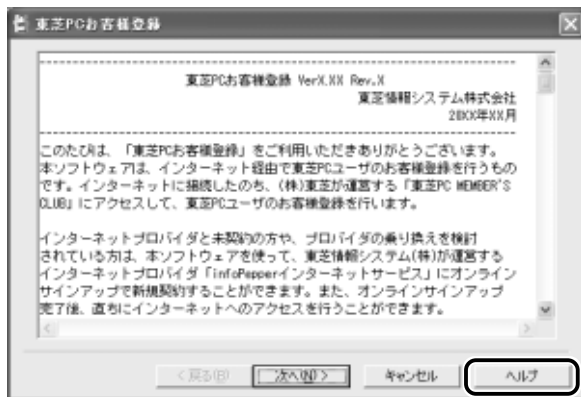
### [ヘルプ] メニューから起動する

- 1 メニューバーから [ヘルプ] - [目次] をクリックする



### [ヘルプ] ボタンをクリックする

- 1 画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする



## [スタート] メニューから起動する

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] →アプリケーション名→アプリケーションのヘルプをクリックする



## ? をクリックする

- 1 画面右上の ? をクリックする  
ポインタが ? に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする  
説明文がポップアップで表示されます。

# 3

## アプリケーションの追加と削除

### 1 インストールとは？

インストールとは、必要なファイルなどをお使いのパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規にご購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、ご購入時にすでにインストール済みであることをプレインストール、アプリケーションを削除することをアンインストールといいます。

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCDから、再インストールして使用することができます。



参照 再インストールについて

⇒『困ったときは 3章 4 アプリケーションを再インストールする』

### 2 アプリケーションを追加する

〔プログラムの追加と削除〕からアプリケーションをインストールする方法を説明します。



手動で〔プログラムの追加と削除〕を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合があります。

その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。



- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

## 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたは CD-ROM をセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[  プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [  プログラムの追加] をクリックする
- 4 [CD またはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

### 3 アプリケーションを削除する

アプリケーションを削除する方法を説明します。

アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よくご確認のうえ行なってください。




- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。



- アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ（アンインストーラ）が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。

#### 操作手順

---

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  プログラムの追加と削除 ] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする



### 3 [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。



# 5章 モバイルしよう

- 1 モバイルする前に ..... 162
- 2 バッテリーについて ..... 164
- 3 省電力の設定をする ..... 174
- 4 パソコンの使用を中断する  
／簡単に電源を切る ..... 180
- 5 外出先でインターネットに接続する ..... 188

# 1


## モバイルする前に

本製品でモバイルするためには、あらかじめ準備しておくことや知っておいたほうがよいことがあります。

この章では、より快適にモバイルするための方法を紹介します。


### ■バッテリーを充電する

モバイルで使用するためには、あらかじめバッテリーの充電を完了しておく必要があります。

 詳細について ⇨ 「本章 2-1 バッテリーを充電する」


### ■省電力の設定をする

バッテリーで使用しているときに、消費電力を減らす設定を行うことで、より長い時間モバイルすることができます。設定は、「東芝省電力ユーティリティ」で行います。

 詳細について ⇨ 「本章 3 省電力の設定をする」


### ■パスワードセキュリティ機能を使う

モバイルで使用しているときは、特に第三者にパソコンを操作されないように注意する必要があります。本製品では、パスワードを設定することができます。

 詳細について ⇨ 「8章 3 パスワードセキュリティ」


## ■パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る

モバイルで使用しているときは、作業を一時的に中断することがよくあります。そのたびに電源を切ったり、入れたりするのではなく、「スタンバイ」や「休止状態」を使うと、中断時の作業がすばやく再現されるので便利です。

 詳細について ⇨ 「本章 4 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

## ■外出先でインターネットに接続する

モバイルでインターネットや電子メールを使用することができます。ここでは、モバイルでインターネットに接続する方法や、外出先の環境にあわせて設定を変更する方法を紹介します。

 詳細について ⇨ 「本章 5 外出先でインターネットに接続する」

# 2

## バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

また、本製品のスリムセレクトベイにセカンドバッテリーパック（別売り）を取り付けて使用できます。



セカンドバッテリーパックの取り付け

➡ 「7章 2 スリムセレクトベイ機器を差し替える」

本製品のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記載されています。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記載をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。



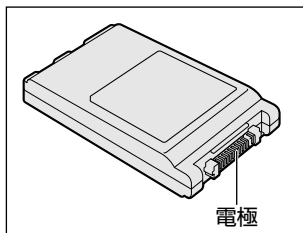
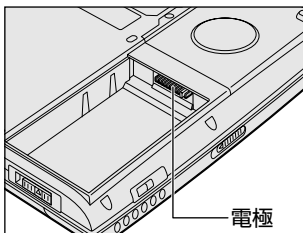
『安心してお使いいただくために バッテリーパックの取り扱いについて』

### ⚠ 警告

- ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS012）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

## ⚠ 注意

- ・バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。  
バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、全バッテリーを充電してください。
- ・バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。




## バッテリーを節約する


---

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。


- こまめに休止状態にする

 休止状態 ⇨ 「本章 4 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

 ディスプレイを閉じる  
⇨ 「本章 4-2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

- 省電力モードに設定する

 省電力設定 ⇨ 「本章 3 省電力の設定をする」

## 時計用バッテリー


---

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

### ■ 充電完了までの時間

状態	時計用バッテリー
電源ON	8時間

-  ● 時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。





# 1 バッテリーを充電する

ここでは、バッテリーの充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

## 充電方法


### 1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

### 2 Battery LED が緑色になるまで通電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、通電されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。



- バッテリーパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリーを充電するには、10～30℃の室温で充電してください。



- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- スリムセレクトベイにセカンドバッテリーパックを取り付けている場合は、標準のバッテリーパックから充電が開始されます。
- AC アダプタを長時間接続したまま使うと、バッテリー駆動時間が短くなることがあります。1ヶ月に1度はバッテリー駆動で使用し、再充電してください。

## ■ 充電時間

フル充電になるまでの充電時間の目安は次のとおりです。

状態	電源ON	電源OFF
標準のバッテリーパック	約3～9時間	約3時間
セカンドバッテリーパック	約3～8時間	約3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

## ■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は目安にしてください。

### 【充電完了の状態で使用した場合】

標準のバッテリーパック	約3.3時間
標準のバッテリーパックとセカンドバッテリーパックの両方	約6.6時間


(注) 当社使用のプログラムで計測

## ■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

### 【フル充電した状態で電源を切った場合】


パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約60日
スタンバイ	約5日


-  ● スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短い  
ため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

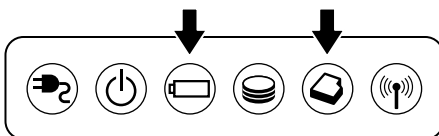
## 2 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って途中で作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

### LED で確認する

AC アダプタを使用している場合、Battery  LED が緑色に点灯すれば充電完了です。

また、スリムセレクトベイにセカンドバッテリーパック（別売り）を取り付けている場合は、Slim Select Bay  LED が緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。LED の色は次の状態を示しています。

緑		充電完了
オレンジ		充電中
オレンジの点滅		充電が必要
消灯	Battery  LED	・ バッテリーが接続されていない ・ ACアダプタが接続されていない ・ バッテリー異常
	Slim Select Bay  LED	・ 充電待ち（標準のバッテリーパックの充電中） ・ バッテリーが接続されていない ・ ACアダプタが接続されていない ・ バッテリー異常

## 通知領域の [省電力] アイコンで確認する

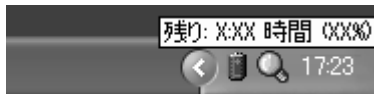
通知領域の [省電力] アイコンの上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、電池マークとバッテリー動作予想時間も表示されます。

- AC アダプタを接続している場合



- バッテリー駆動の場合




- メモ ● 通知領域に表示される [省電力] アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- 東芝省電力ユーティリティ ([コントロールパネル] → [パフォーマンスとメンテナンス] → [東芝省電力]) の [電源設定] タブの設定内容によっては、通知領域に [省電力] アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

## バッテリー充電量が減少したとき

---

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、通電する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

ご購入時の設定では、対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。



- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、LED で放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

### 3 バッテリーパックを交換する

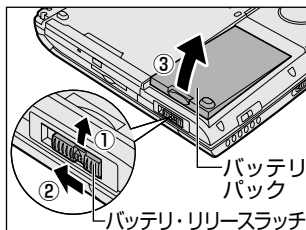


- バッテリーパックの取り付け/取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

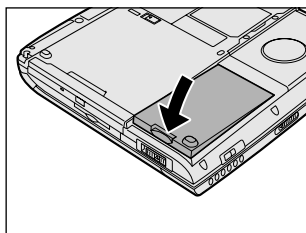
#### 取り付け／取りはずし

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

- 4 バッテリー・リリースラッチの△部分を上にずらし①、バッテリー・リリースラッチをスライドしながら②、バッテリーパックを取りはずす③



- 5 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで、静かに差し込む



- 6 バッテリー・リリースラッチの△部分を下にずらしてロックする

# 3

## 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らすこと（ディスプレイの明るさを抑えるなど）で、より長い時間お使いいただけます。ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

- CD-RW、CD-R に書き込みを行う際は、省電力機能が動かないようにしてください。

### 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ パフォーマンスとメンテナンス ] をクリックする
- 2 [ 東芝省電力 ] をクリックする

### 【電源設定】 タブ

画面はインテル®SpeedStep™ テクノロジー搭載モバイル Pentium®III プロセッサモデルの表示例です。





使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

## ■【電源に接続】【バッテリーを使用中】

設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になる省電力モードに設定します。【電源に接続】【バッテリーを使用中】はACアダプタ接続／バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。


ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー	最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、【電源に接続】（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、【バッテリーを使用中】（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。
スーパーロングライフ	消費電力を最優先にして省電力制御を行います。

## 【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする  
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

 省電力モードの詳細設定 ⇨ 「本項 省電力モードの詳細設定」

## 【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする  
[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている7つの省電力モードを削除することはできません。

## 【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする (  ) と現在の省電力モードを示す省電力アイコンが通知領域に表示されます。チェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

## 【タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する】

インテル® SpeedStep™ テクノロジー搭載モバイル Pentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。  
[インテル(R)SpeedStep(TM)Technology の状態を表示する] をチェックする (  ) と現在の CPU 周波数の状態を示すアイコンが通知領域に表示されます。  
CPU 周波数アイコンをクリックすることにより、CPU 周波数を変更することができます。

## 【休止状態】 タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。



## 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

### ■ 起動方法

- ① [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする  
[XX (省電力モード) のプロパティ] 画面が表示されます。



## ■ 【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

## ■ 【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

## ■ 【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

### 【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。


### 【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

 参照  スタンバイ、休止状態の詳細  「本章 4-1 スタンバイ／休止状態」

## 【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

- スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める  
ここをチェックする (  ) と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイや休止状態から復活するときに Windows パスワードが要求されます。
-  ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

## ■ [アラーム] タブ



バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

## ■ [デバイスの設定] タブ

省電力モードで使用する時、デバイスを有効/無効にする設定を行います。

## 詳しい操作方法を知りたいとき (ヘルプの起動)

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、[東芝省電力のプロパティ] 画面右上の  をクリックする  
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

# 4

## パソコンの使用を中断する ／簡単に電源を切る

### 1 スタンバイ／休止状態

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。パソコンの使用を中断したときの状態をメモリに保存するのが「スタンバイ」、ハードディスクに保存するのが「休止状態」です。再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。



- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前に、データを保存することをおすすめします。

電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにスタンバイまたは休止状態にする場合は、設定が必要です。



詳細について

☞ 「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

## スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- バッテリーが消耗したとき
- 故障、修理、バッテリー交換のとき
- バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき



- スタンバイ状態は、表示画面が消えていても電源が入っています。スタンバイ状態でお使いになる場合は、次の「警告」や「注意」の指示を必ずお守りください。

### ⚠ 警告

- ・ パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

### ⚠ 注意

- ・ スタンバイ中は、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け／取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。

# 1 [スタート] ① → [終了オプション] をクリックする②



# 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

# 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

**メモ** ● (Fn) + (F3) キーを押して、スタンバイを実行することもできます。



## 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現することができます。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。パソコンをバッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることをおすすめします。ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。



- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

### 1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] アイコンをクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする  
休止状態が有効になります。

### 2 [スタート] ①→ [終了オプション] をクリックする②



- 3 (Shift)キーを押しながら [休止状態] をクリックする  
(Shift)キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



- メモ ● (Fn)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

[スタート] メニューから選択する方法のほかに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。

参照 詳細について

☞ 「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

## 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき

〔スタート〕メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

### 電源スイッチを押す


休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] アイコンをクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする (☑)
- ④ [OK] ボタンをクリックする  
休止状態が有効になります。

### 1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] アイコンをクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で、[OK] ボタンをクリックする

 ●④で [入力を求める] を選択すると、電源スイッチを押したとき、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

### 2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

## ディスプレイを閉じる

---

ディスプレイを閉じるとパソコンの使用を中断することをパネルスイッチ機能といいます。


休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] アイコンをクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする (  )
- ④ [OK] ボタンをクリックする  
休止状態が有効になります。

### 1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] アイコンをクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で、[OK] ボタンをクリックする

 ● ④で [何もしない] を選択すると、パネルスイッチ機能は動きません。

### 2 ディ스플레이を閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の④で [スタンバイ] または [休止状態] を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

### 3 再起動する

Windows を終了した後、すぐにもう 1 度起動することを再起動といいます。パソコンの設定を変えたときや、パソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

#### 1 [スタート] ① → [終了オプション] をクリックする②



#### 2 [再起動] をクリックする



# 5

## 外出先でインターネットに接続する

外出先でもインターネットや電子メールを利用することができます。  
外出先でインターネットに接続するには、次のような方法があります。

### ■ PHS、携帯電話を使う

PHS、携帯電話を接続してインターネットに接続できます。  
本製品に PHS、携帯電話を接続する場合は、市販の接続機器が必要です。  
接続について詳しくは、『PHS、携帯電話に付属の説明書』や『接続機器に付属の説明書』をご覧ください。

### ■ モジュラージャック付きの公衆電話

公衆電話の中には、モジュラージャックが用意されているものがあります。  
「アナログ」と書いてあるモジュラージャックにモジュラーケーブルを接続します。

### ■ インターネット接続の設備が整っている場所

ホテルのビジネスルームなどでは、モジュラーケーブルを接続するための電話回線が用意されている場合があります。

ここでは、モバイルでインターネットや電子メールを使用する場合に、自宅やオフィスなどで普段利用している設定を変更する方法について説明します。  
外出先の環境について、次の点を確認してください。

- 外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）
- 外出先の電話回線の市外局番



- ここでは、普段は自宅やオフィスなどで、インターネットやメールをモデム接続で使用している場合を、「現在の設定」とします。

## 外出先のダイヤル方法を確認する

---

最初に、外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）を確認します。

現在の設定と同じ場合は、特に設定を変更する必要はありません。  
現在の設定と異なる場合は、「設定の変更」を行います。

## 外出先の市外局番を確認する

---

次に、外出先の電話回線の市外局番を確認します。



現在の設定と同じ市外局番の場合は、特に設定を変更する必要はありません。

現在の設定と異なる市外局番の場合は、「設定の変更」を行うことをおすすめします。

現在の設定のままインターネットに接続することもできますが、外出先により近いアクセスポイントに変更すると電話料金を節約できます。アクセスポイントについては、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

## 設定の変更

---

- 1 [コントロールパネル] を開き、 プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2  電話とモデムのオプション] をクリックする
- 3 [ダイヤル情報] タブで [編集] ボタンをクリックする  
外出先の設定を新たに登録したい場合は [新規] ボタンをクリックしてください。  
[所在地の編集] 画面が表示されます。

## 4 発信元の変更する

お使いになる電話回線について、次の点を確認してください。

- 登録名
- 発信元の市外局番
- 外線発信番号
- ダイヤル方法

## 5 [OK] ボタンをクリックする

次に、接続先の電話番号の設定を行います。

1 [スタート] → [接続] → [XX (接続先)] をクリックする  
[XX (接続先) へ接続] 画面が表示されます。

2 [XX (接続先) へ接続] 画面で [プロパティ] ボタンをクリックする  
[XX (接続先) プロパティ] 画面が表示されます。

3 [全般] タブで [電話番号] 欄に、これから使用したいアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力する

4 [XX (接続先) プロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

5 [XX (接続先) へ接続] 画面で [ダイヤル] ボタンをクリックする  
設定が有効になります。

すぐに接続する必要がない場合は、[接続しています] 画面で [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

外出先での使用が終了した後は、設定を元に戻しておく必要があります。「普段利用する設定」と「外出先の設定」を、どちらも保存しておき、必要に応じて使い分けると便利です。



- 海外で使用する場合は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で地域設定を行なってください。



「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」

☞ 「1章 6 内蔵モデム」



# 6章 Bluetooth 機能を使おう

- 1 Bluetooth とは ..... 192
- 2 Bluetooth 機能を使って通信を始める ..... 195
- 3 他のコンピュータとの通信 ..... 205

# 1

## Bluetooth とは

ブルートゥース

Bluetooth 内蔵モデルの場合、Bluetooth 機能を利用できます。

Bluetooth とは、パソコン、携帯電話、ヘッドセットマイク、プリンタ、デジタルカメラなどを無線で接続する通信技術です。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、Bluetooth 対応のパソコンから無線でデータを送り、少し離れた Bluetooth 対応のプリンタから出力したり、Bluetooth 対応の携帯電話をポケットに入れたまま、Bluetooth 対応のパソコンからインターネットに接続できたりします。



- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。

本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。

- 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。



- 本製品は、すべての Bluetooth 対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべての Bluetooth 対応機器との動作を保証することはできません。

Bluetooth 機能での通信は、最初に発信する Bluetooth 対応機器と、それに応答する Bluetooth 対応機器で最大で 8 台のネットワークを組むことができます。

## 通信距離と速度

本製品は、見通し約 10 m の範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約 720kbps です。



- 通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OS などにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

## セキュリティ

Bluetooth 機能で通信を行うときに使用する 2.4GHz 帯は、日本をはじめ世界各国で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定の Bluetooth 対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth 対応機器には、それぞれ固有の ID が割り振られ、接続時には ID の交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能を持っています。また、本製品にインストールされている「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の「Bluetooth Service Center」で、初めて通信を開始する時に「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。



Bluetooth パスキー → 『Bluetooth 東芝ユーティリティのヘルプ』

## Bluetooth 標準規格

Bluetooth は様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国・各メーカーの Bluetooth 対応機器でスムーズに通信できるように Bluetooth SIG (Special Interest Group) が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。また、各メーカーは Bluetooth 対応機器の発売にあたり、その Bluetooth 対応機器が Bluetooth 標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIG によって認証された Bluetooth 対応機器には、Bluetooth ロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。

## 無線特性

---

Bluetoothの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。



- 各国で適用される無線規制については、「ユーザに対するお知らせ」をご覧ください。



- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る "障害物" がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

## サポートしているプロファイル一覧

---

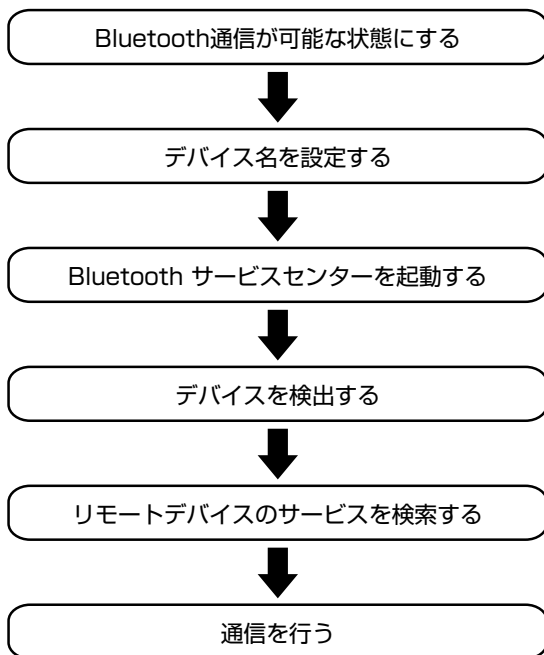
本製品でサポートしているプロファイルは次のとおりです。

- Generic Access
- Service Discovery Application
- Serial Port
- Dial-up Networking
- FAX
- LAN Access
- Object Push
- File Transfer

# 2

## Bluetooth 機能を使って通信を始める

Bluetooth 機能を使って通信を行う基本的な操作方法を説明します。  
操作手順の流れは次のとおりです。



本製品では「Bluetooth 東芝ユーティリティ」で他の Bluetooth 対応機器と通信ができます。

## Bluetooth 東芝ユーティリティ

---

「Bluetooth 東芝ユーティリティ」は、あらかじめ本製品にはインストールされていません。次の手順に従ってインストールしてください。

- 1 「アプリケーションCD」の2枚目をセットする
- 2 「Bluetooth ドライバ&ユーティリティ」を選択する
- 3 画面の指示に従ってインストールする

「Bluetooth 東芝ユーティリティ」は、次の4つのアプリケーションにより構成されています。

### ■ Bluetooth Manager

起動すると、通知領域にアイコンが常駐します。

Bluetooth 東芝ユーティリティの初期設定、動作状況の監視、制御を行います。

通知領域のアイコンを右クリックして表示されるメニューから Bluetooth サービスセンターの起動や、ローカルデバイスの設定などができます。

### ■ Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)

Bluetooth サービスを統合的に管理します。

主な機能は次のとおりです。

- ローカルサービスの管理
- リモートデバイスとリモートサービスの確認
- ローカルサービスとリモートサービスの接続／切断

また、接続時に使用する場所に応じてセキュリティ設定、Bluetooth 対応機器のモード設定の切り替えなどもできます。

### ■ Bluetooth Local COM

Bluetooth 東芝ユーティリティで使用するローカルな仮想 COM ポートの生成／削除を行います。

[コントロールパネル] からも起動できます。

## ■ Network Server Service (LANエミュレーションネットワークサーバーサービス)

LANエミュレーションネットワークサーバーサービス (LANE サービス) を使用するためのユーティリティです。

Bluetooth対応機器上にLAN機能を提供し、BluetoothのPiconet (ワイヤレスネットワーク) 機能によって、複数のBluetooth対応機器を接続することができます。

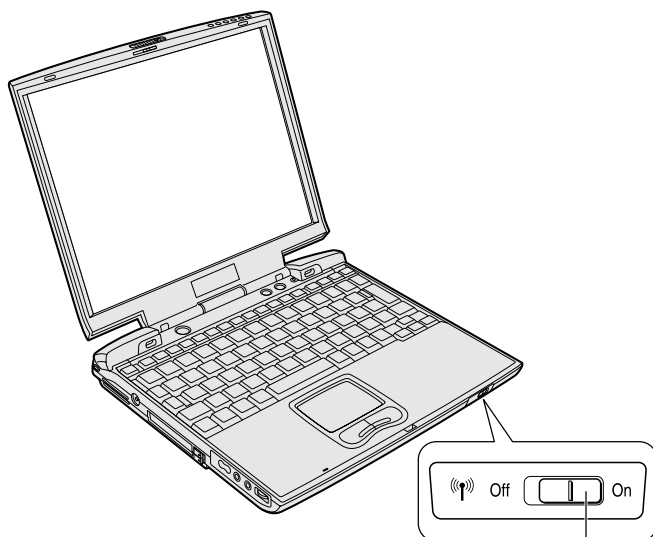
# 1 Bluetooth通信が可能な状態にする

Bluetooth機能を使った通信が可能な状態にします。

### ⚠ 警告


- ・パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ (左側) にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。

- 1 ワイヤレスコミュニケーションスイッチを右にスライドする  
ワイヤレスコミュニケーション (無線) LED がオレンジ色に点灯します。





ワイヤレスコミュニケーションスイッチ

- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [Bluetooth Manager] をクリックする


Bluetooth Manager が起動し、通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン (  ) が表示されます。



-  ● [Bluetooth Manager] アイコン (  ) はサービスの状態によって表示が異なります。  
詳細については、『Bluetooth User's Guide』をご覧ください。

## 2 デバイス名を設定する

自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン (  ) を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [デバイスプロパティ] をクリックする  
[デバイスプロパティ] 画面が表示されます。





3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②


ここでは、「ToshibaBtなगत」と入力しています。



デバイス名が設定されます。

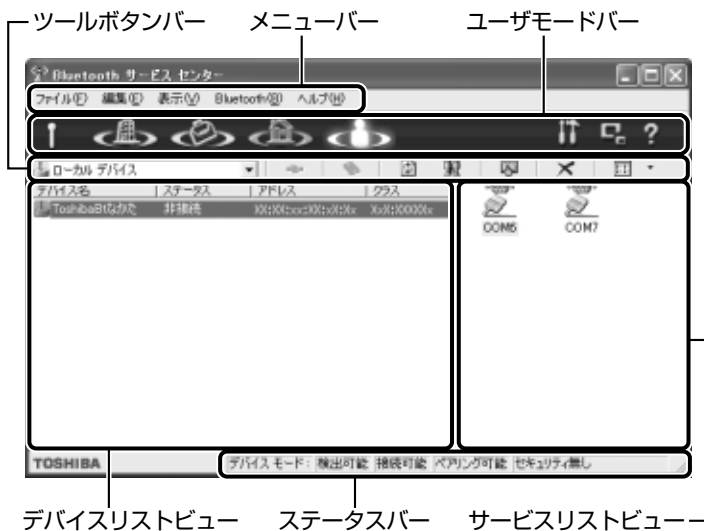
### 3 Bluetooth Service Centerを起動する

Bluetooth Service Centerは、Bluetoothサービス（Bluetoothでの通信の種類）を統合的に管理するユーティリティです。Bluetooth Service Centerで、他のBluetooth対応機器との通信に関する操作を行います。

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン（) をダブルクリックする




「Bluetooth Service Center」が起動します。

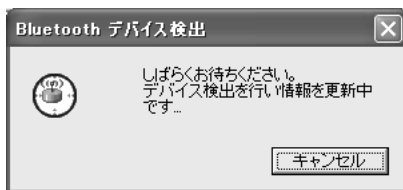


## 4 リモートデバイスを検出する

デバイスの検出を行うと、その時点で通信可能な他の Bluetooth 対応機器がわかります。通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」とよびます。

検出の結果は、環境、リモートデバイスの状態によって異なります。

- 1 [デバイス検出] ボタン (  ) をクリックする  
リモートデバイスの検出を開始します。




デバイスフィルタ欄が [リモートデバイス] に変わり①、検出されたリモートデバイスがデバイスリストビューに表示されます②。



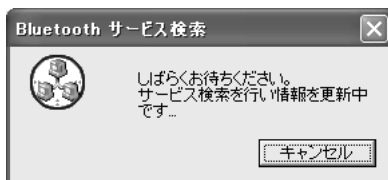
## 5 リモートデバイスのサービスを検索する

検出したデバイスが、どのようなサービス（Bluetooth での通信の種類）を実行できるのかを調べます。

- 1 目的のリモートデバイスをクリックし①、[サービス検索] ボタン（）をクリックする②



リモートデバイスのサービスの検索を開始します。




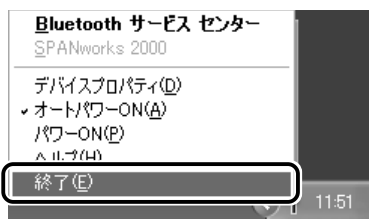
サービスリストビューにリモートデバイスのサービスが表示されます。



リモートデバイスとBluetoothでの通信を行うことができます。  
詳細については、『Bluetooth User's Guide』をご覧ください。

## 6 アプリケーションを終了する

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン (  ) を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [終了] をクリックする




[Bluetooth Manager] 画面が表示されます。

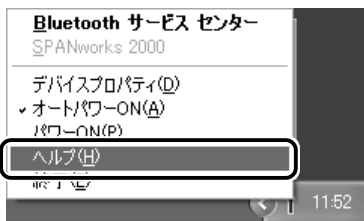


- 3 メッセージを確認し、[はい] ボタンをクリックする  
[Bluetooth 東芝ユーティリティ] が終了します。

## 7 ヘルプの起動

『Bluetooth User's Guide』では、『Bluetooth 東芝ユーティリティ』の使用方法をさらに詳しく説明しています。本書とあわせてご覧ください。次の手順で起動します。

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン (  ) を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする



ヘルプが表示されます。

# 3


## 他のコンピュータとの通信

BluetoothのネットワークサービスでLANエミュレーションネットワークを構築して、Bluetooth対応の他のコンピュータと通信することができます。Bluetoothのネットワークサービスでは、サーバの役割をするコンピュータとクライアントのコンピュータとでは操作方法が異なります。ここでは、それぞれの操作手順について説明します。

### 1 ネットワークサーバーサービスの開始

Bluetoothのネットワークサービスでは、サーバとなるコンピュータがネットワークサーバーサービスを開始します。操作手順は、次のとおりです。

#### 1 Bluetoothでの通信が可能な状態にする

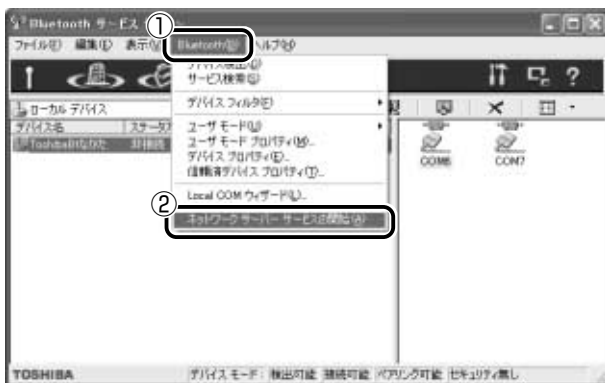
 詳細について ⇨ 「本章 2-1 Bluetooth通信が可能な状態にする」

#### 2 通知領域にある [Bluetooth Manager] アイコン ( ) をダブルクリックする



「Bluetooth Service Center」が起動します。

- 3 メニューバーから [Bluetooth] ①→ [ネットワークサーバーサービスの開始] ②をクリックする



[LAN エミュレーションネットワークサーバーサービス] 画面が表示されます。


- 4 [OK] ボタンをクリックする



通知領域に [LANE Server Service] アイコンが表示されます。





ネットワークサーバーサービスを開始すると、[Bluetooth サービスセンター] 画面右のサービスリストビューに [LANE] アイコン (  ) が表示されます。





## 2 ネットワークへの接続

クライアントマシンから LAN エミュレーションネットワークに接続するには、あらかじめサーバマシンの次の情報が必要です。

- デバイス名
- デバイスアドレス
- Passkey (設定されている場合)

接続手順は次のとおりです。

### 1 Bluetooth での通信が可能な状態にする


 詳細について  「本章 2-1 Bluetooth 通信が可能な状態にする」

### 2 通知領域にある [Bluetooth Manager] アイコン ( ) をダブルクリックする





「Bluetooth Service Center」が起動します。

### 3 デバイスの検出を行う

参照  検出方法について  $\hookrightarrow$  「本章 2-4 リモートデバイスを検出する」

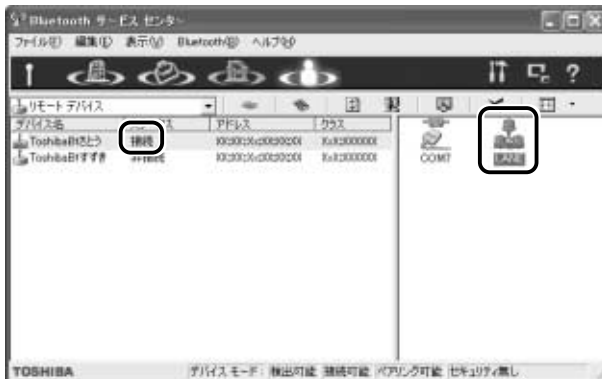
### 4 サーバマシンのサービスを検索する

参照  サービスの検索方法について  
 $\hookrightarrow$  「本章 2-5 リモートデバイスのサービスを検索する」

- 5 サーバマシンの [LANE] アイコン (  ) をクリックし  
①、ツールボタンバーの [接続] アイコンをクリックする②




ネットワークが接続されます。  
接続されると、サーバマシンの [ステータス] が [接続] に変わり、[LANE] アイコンが接続状態に変わります。



### 3 クライアントマシンでの切断

クライアントマシンがネットワークサービスとの接続を切断するには、次の操作を行います。

- 1 サービスリストビューで [LANE] アイコン (  ) をクリックし①、[切断] アイコンをクリックする②



ネットワークが切断されます。

### 4 ネットワークサーバーサービスの終了

サーバマシンは、次の手順でネットワークサーバーサービスを終了することができます。

- 1 通知領域の [LANE Server Service] アイコンをクリックする



[LAN エミュレーションネットワークサーバーサービス] 画面が表示されます。

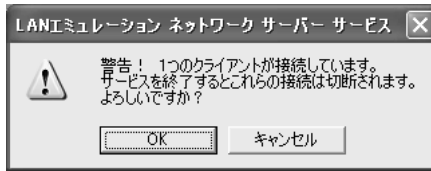
## 2 [サービス終了] ボタンをクリックする



ネットワークサーバーサービスが終了します。

### ■ クライアントマシンが接続していた場合

サーバマシンがネットワークサーバーサービスを終了したとき、ネットワークにクライアントマシンが接続していた場合は、ネットワークサービスの終了を確認する [警告] の画面が表示されます。




終了する場合は [OK] ボタンをクリックしてください。

### ■ 接続中にネットワークサーバーサービスが終了した場合

クライアントマシンでネットワークに接続中に、サーバマシンがネットワークサーバーサービスを終了したとき、切断されたことを表すメッセージが表示されます。



[OK] ボタンをクリックしてください。

-  ● サーバマシンがネットワークサーバーサービスを終了したときの他に、サーバマシンとの距離が離れた、または電波環境が悪化した場合もネットワークから切断されます。

# 7章 周辺機器を使う

- 1 周辺機器を接続する前に ..... 212
- 2 スリムセレクトベイ機器を差し替える ..... 215
- 3 フロッピーディスクドライブを接続する .... 224
- 4 PC カードを接続する ..... 232
- 5 SD メモリカードを接続する ..... 235
- 6 USB 対応機器を接続する ..... 241
- 7 i.LINK (IEEE1394) 機器を接続する ..... 243
- 8 マイクロホンを接続する ..... 246
- 9 ヘッドホンを接続する ..... 247
- 10 CRT ディスプレイを接続する ..... 218
- 11 LAN へ接続する ..... 251
- 12 メモリを増設する ..... 254

# 1

## 周辺機器を接続する前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。周辺機器には次のようなものがあげられます。周辺機器には、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- PC カード
- スキャナ
- マウス
- 増設メモリ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵済み）
- モデム（本製品では内蔵済み）
- LAN（本製品では内蔵済み）
- フロッピーディスクドライブ
- デジタルカメラ

## 1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

### ドライバをインストールする

---

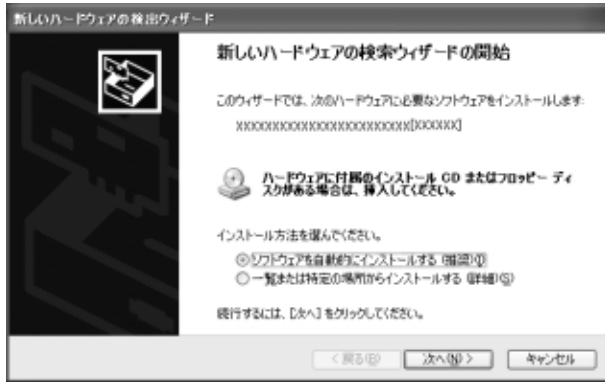
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

## ■ プラグアンドプレイに対応している場合

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると、Windows がドライバの有無をチェックします。その周辺機器に対応したドライバが見つかった場合は、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



## ■ プラグアンドプレイに対応していない場合

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書をご覧ください。ドライバのインストールや必要な設定を行なってください。



### ● [ハードウェアの追加ウィザード] の起動方法

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] から [ハードウェアの追加] をクリックする

## 2 取り付け／取りはずしのご注意

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。

### ⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。



- **ホットインサージョン** ● 電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うこと。



- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

### ■ パソコン本体へケーブルを接続するとき

ケーブルを接続するときは、次の点に注意して、接続してください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。



# 2

## スリムセレクトベイ機器を差し替える

本製品のスリムセレクトベイには、次にあげる機器を取り付けることができます。

- CD-R/RW ドライブ（標準で取り付けられています）
- マルチドライブ（別売り）
- セカンドハードディスク（別売り）  
セカンドハードディスクの他に、セカンドハードディスクアダプタ（別売り）が必要です。
- セカンドバッテリーパック（別売り）

いずれもご使用にならないときは、スリムセレクトベイにウェイトセーバを取り付けてください。

### ⚠ 注意

- ・ 安全のために、スリムセレクトベイにはスリムセレクトベイ機器またはウェイトセーバのいずれかを取り付けてお使いください。
- ・ Power LED が点灯しているときには、スリムセレクトベイ機器の差し替えを行わないでください。パソコン本体あるいはスリムセレクトベイ機器が故障する場合があります。また、データが消失するおそれがあります。

# 1 スリムセレクトベイ機器の差し替え

1 データを保存し、アプリケーションを終了する

2 パソコン本体の電源を切る

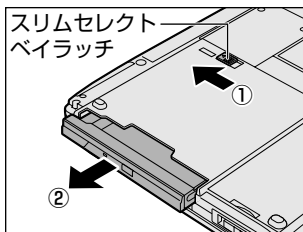
 電源の切りかたについて ⇨ 「まずはこれから 電源を切る／入れる」

3 Power  LED、Disk  LED、Slim Select Bay  LED、SD Card LED が消灯していることを確認する

4 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す


5 スリムセレクトベイラッチをスライドし①、スリムセレクトベイ機器を引き出す②


スリムセレクトベイラッチをスライドさせた状態で機器をしっかりつかんで水平に引き出してください。



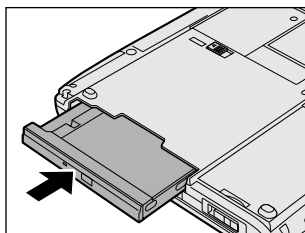
## 6 スリムセレクトベイ機器にアダプタを取り付ける

取り付けるスリムセレクトベイ機器に応じて、アダプタを取り付けてください。CD-R/RW ドライブ、マルチドライブにはアダプタは必要ありません。

 セカンドハードディスク ⇨ 「本節 3 セカンドハードディスク」

 セカンドバッテリーパック ⇨ 「本節 4 セカンドバッテリーパック」

7 スリムセレクトベイに取り付ける機器を裏返し、しっかり差し込むカチッと音がしてスリムセレクトベイラッチがかかるまで差し込んでください。



## 2 マルチドライブ

スリムセレクトベイにマルチドライブ（別売り）を取りつけると、DVDの迫力ある映像を楽しんだり、CDにデータを書き込むことができます。CD / DVDのセットと取り出し、CDへの書き込みについては、「1章9CD」をご覧ください。

### 使用できるCD / DVD

---

#### ■ 読み込みできるCD

- ① 音楽用CD  
8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- ② フォトCD  
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録しています。
- ③ CD-ROM  
使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。
- ④ CDエクストラ  
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分け、両方の再生装置でそれぞれ再生します。
- ⑤ CD-R
- ⑥ CD-RW



● CD-R、CD-RWは、メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合もあります。

## ■ 書き込みできる CD

### ① CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

CD-R メディアに書き込む際には、8 倍速対応 CD-R メディアをご使用ください。

### ② CD-RW

1 / 2 / 4 倍速対応 (マルチスピード) CD-RW メディアまたは High-Speed CD-RW (4 ~ 10 倍速) 対応メディアをご使用ください。

High-Speed CD-RW 対応メディアを使用した場合の書き込み速度は 8 倍速になります。

## ■ 読み込みできる DVD

### ① DVD-ROM

### ② DVD-Video

映像再生用です。

DVD の再生には、マルチドライブに同梱の「InterVideo WinDVD」をお使いください。



- DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続した状態でご使用になることをおすすめします。

また、使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。

- DVD-Video を再生前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動しないでください。

その他のご注意については「InterVideo WinDVD」の Readme ファイルをよくお読みのうえ、DVD-Video をご使用ください。



- 「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD の再生はサポートしていません。

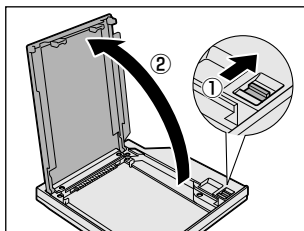
## 3 セカンドハードディスク

別売りのセカンドハードディスクを取り付けると、パソコンの記憶容量を増やすことができます。

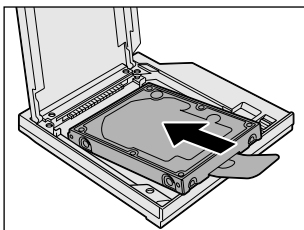
セカンドハードディスクアダプタ（別売り）に取り付けてから、スリムセレクトベイに取り付けてください。

### セカンドハードディスクアダプタへの取り付け

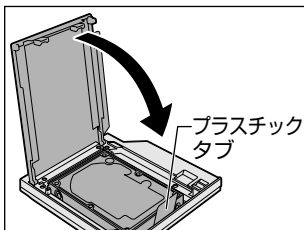
- 1 セカンドハードディスクアダプタのカバーのロックを解除し①、カバーを開く②



- 2 セカンドハードディスクを差し込む



- 3 プラスチックタブをセカンドハードディスクアダプタ内に収納しながらカバーを閉める



- 4 カバーをロックする



パソコン本体への取り付け

☞「本節 1 スリムセレクトベイ機器の差し替え」

## セカンドハードディスクアダプタからの取りはずし



---

- 1 セカンドハードディスクアダプタのカバーのロックを解除し、カバーを開く
- 2 プラスチックタブを持ち上げる  
セカンドハードディスクがアダプタからはずれます。
- 3 カバーを閉め、ロックする

## セカンドハードディスクの設定

---

セカンドハードディスクの設定は出荷時にパーティションの設定およびフォーマットはされていません。ご使用になるために次の手順でウィザードを起動し、表示される画面の指示に従って操作してください。

- 1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[  パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 3 [  管理ツール] をクリックする
- 4 [コンピュータの管理] をダブルクリックする

## 5 [ディスクの管理] をクリックする



[ディスクの初期化ウィザード] が起動します。  
画面の指示に従って操作してください。



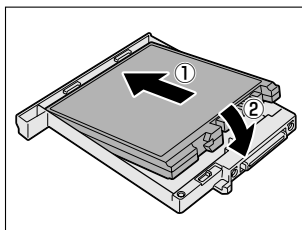
## 4 セカンドバッテリーパック

別売りのセカンドバッテリーパックを標準のバッテリーパックと同時に使用すると、より長い時間バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用できます。

セカンドバッテリーパックに同梱のアダプタに取り付けてから、スリムセレクトベイに取り付けてください。

### アダプタへの取り付け

- 1 コネクタ部分をあわせ①、アダプタにセカンドバッテリーパックを取り付ける②



 パソコン本体への取り付け ⇨ 「本節 1 スリムセレクトベイ機器の差し替え」

### アダプタからの取りはずし

- 1 ラッチをスライドし、バッテリーパックを取りはずす  
バッテリーパックが持ち上がるので、アダプタから取り出してください。

# 3

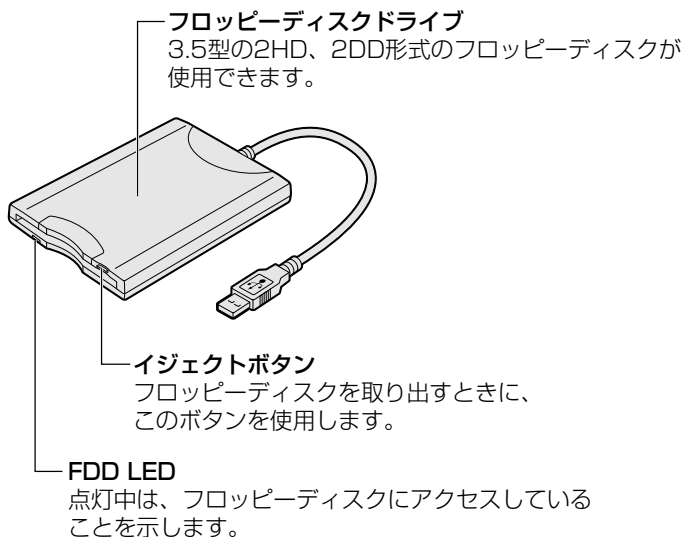
## フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱のUSB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。

フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、他のパソコンとデータをやり取りすることができます。

### 1 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしの方法については「本章 6 USB 対応機器を接続する」をご覧ください。



## フロッピーディスクドライブのご使用について

フロッピーディスクドライブをお使いになる場合は、次のことに注意してください。



- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。  
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れる可能性があります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

### ⚠ 注意


- ・パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDD LEDが点灯しているとき）に、電源を切ったり、USBケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

## 常にフロッピーディスクから起動する場合

次の設定を行なってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  プリンタとその他のハードウェア ] をクリックする
- 2 [  東芝 HW セットアップ ] をクリックする
- 3 [OS の起動] タブで [OS の起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- 4 [OK] ボタンをクリックする

## 一時的にフロッピーディスクから起動する場合

- 1  キーを押しながら、電源を入れる

## 2 フロッピーディスク


### 使用できるフロッピーディスクの種類とその容量

---

フロッピーディスクに保存できる容量は、次のとおりです。


フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

Windows用にフォーマットされていないフロッピーディスクを使用する場合は、フォーマットが必要です。

 フォーマットについて [☞「本節 3- フォーマット」](#)

### フロッピーディスクの内容を見る

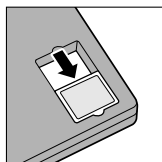
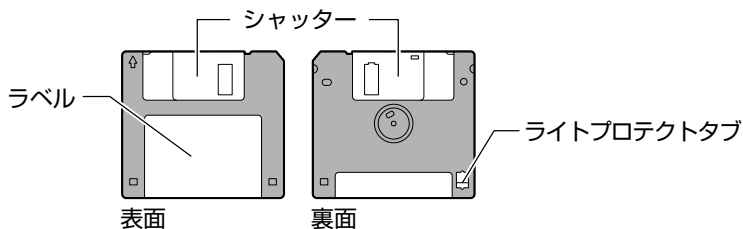
---

- 1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする  
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 2 [ 3.5インチ FD (A:)] をクリックする  
[3.5インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

### 3 フロッピーディスクを使う前に

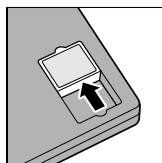
#### ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



#### 書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



#### 書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

## フォーマット

---

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

新品のフロッピーディスクには、システムの種類別にフォーマットされているものと、フォーマットを行わずに販売されているものがあります。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、「Windows フォーマット済み」かどうか確認してください。フォーマットされていないフロッピーディスクを使うときは、必ずフォーマットを行なってください。

他のシステム上でフォーマットされたフロッピーディスクも、Windows 上でフォーマットすることにより、Windows で使用することができます。

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

### 【クイックフォーマット】



以前にフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。


### 【MS-DOS の起動ディスクを作成する】

MS-DOS の起動ディスクを作成します。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

## ■ フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳細については、『ヘルプとサポート』をご覧ください。

-  ● フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。
-  ● 他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
  - フォーマットできるフロッピーディスクは2HDタイプのみ、容量は1.44MBのみになります。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする  
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3  [3.5 インチ FD (A:)] をクリックする  
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

- 4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②  
アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面が表示されます。

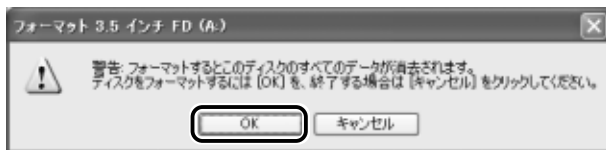
- 5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする  
クイックフォーマットを行う場合は、【クイックフォーマット】を  
チェックしてから、【開始】ボタンをクリックしてください。



メッセージが表示されます。



## 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする



フォーマットが開始されます。フォーマット中は次の画面が表示されます。



バーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

## 7 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする



これで、フォーマットは完了です。  
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。フォーマットを終了する場合は、[フォーマット 3.5 インチ (A:)] 画面で [閉じる] ボタンをクリックしてください。

# 4

## PC カードを接続する

目的に合わせた PC カード<sup>ピーシー</sup>を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PC カードには、次のようなものがあげられます。

- ISDN カード
- スマートメディアアダプタカード
- SCSI<sup>スキャシー</sup> カード
- フラッシュメモリカード
- 無線 LAN カード など

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。

お使いの PC カードがホットインサーションに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。



● PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンドの再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。

- ・ 通信回線の速度が遅くなる
- ・ 通信回線が切断される
- ・ ダイアルに失敗する
- ・ サウンド再生時に音飛びが発生する

### 使用できる PC カードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II / III 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よくご確認ください。

スロット 0 に TYPE III の PC カードを取り付けたときは、スロット 1 に PC カードを取り付けることはできません。

使用スロット	使用可能タイプ
1（上側）	TYPE II
0（下側）	TYPE II/III

## 取り付け／取りはずしのご注意

### ⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- ・PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

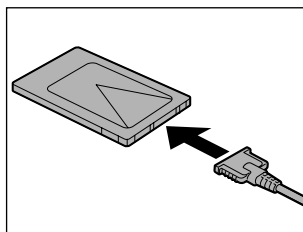


- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

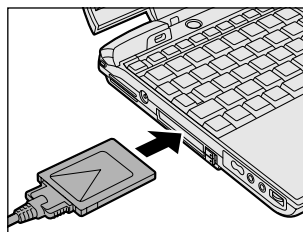
## 取り付け

### 1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。



### 2 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する



カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押ししてください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れることがあります。



カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

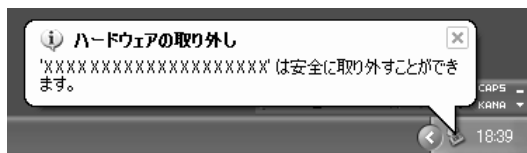


カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PCカードに付属の説明書』

# 取りはずし

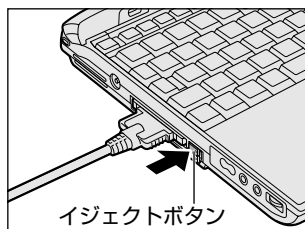
## 1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする



## 2 PCカードスロットのイジェクトボタンを押す

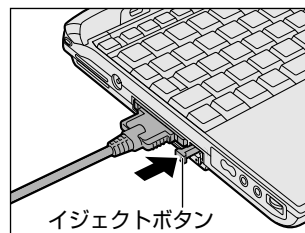
イジェクトボタンが出てきます。



## 3 もう1度PCカードスロットのイジェクトボタンを押す

カチッと音がするまで押してください。

カードが少し出てきます。



## 4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



- カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

# 5

## SD メモリカードを接続する

SD メモリカードをパソコン本体に差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

### 1 SDメモリカード

本製品のSDメモリカードスロットでは、8 / 16 / 32 / 64 / 128MBのSDメモリカードを使用できます。マルチメディアカードは使用できません。

#### ■ 著作権保護について

SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。



- SDMI ● Secure Digital Music Initiative デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体。

#### ■ 著作権について

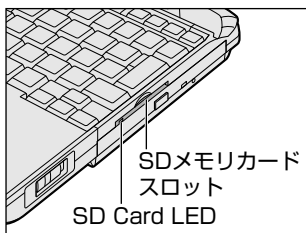
あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

#### ■ メモリ容量について

SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMI規格に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、ご使用いただけるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

## SDメモ리카ードスロットに関する表示

SDメモ리카ードとデータをやり取りしているときは、SD Card LEDが点灯します。



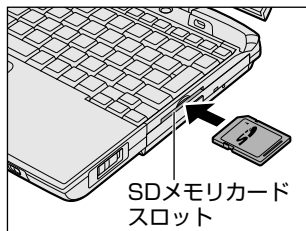
## 2 SDメモ리카ードのセットと取り出し

### ⚠ 注意

- ・SD Card LEDが点灯中は、電源を切ったり、SDメモ리카ードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやSDメモ리카ードが壊れるおそれがあります。
- ・SDメモ리카ードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモ리카ードのデータが壊れるおそれがあります。

### セット



- 1 SDメモ리카ードのラベルを貼られた面を上にして、SDメモ리카ードスロットに挿入する  
カチッと音がするまで挿入します。



## 取り出し

---

### 1 SDメモ리카ードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り出し] アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、 [閉じる] ボタン (  ) をクリックする

### 2 SDメモ리카ードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

## SDメモ리카ードの内容を見る

---

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

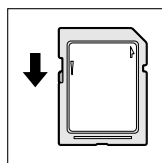
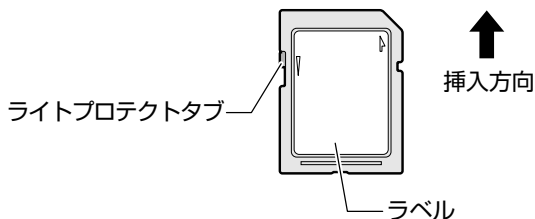
1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする  
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

2 [リムーバブルディスク] をクリックする  
[リムーバブルディスク] 画面が開き、セットしたSDメモ리카ードの内容が表示されます。

### 3 SDメモ리카ードを使う前に

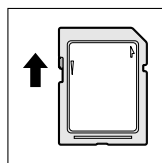
#### ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



#### 書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



#### 書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じの方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。



## フォーマット

フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。

新品のSD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。再フォーマットをする場合は、「TOSHIBA Audio Manager」などのSD メモリカード用のフォーマットができるアプリケーション上で行ってください。または、SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラなど）をお持ちの場合は、使用する機器でフォーマットしてください。フォーマット方法については、『アプリケーションや使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』をご覧ください。

### ⚠ 注意

- ・ Windows 上（[マイ コンピュータ] 画面）でSD メモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラなど他の機器で使用できなくなる場合があります。



- 再フォーマットを行うと、そのSD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用したSD メモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。


## 4 オーディオデータを転送する

本製品にインストールされている「Audio Manager」で音楽 CD などオーディオデータをパソコンやSD メモリカードに転送できます。ここではSD メモリカードへの転送の一例を紹介します。



- 同じオーディオデータを転送できる回数は、1 曲につき 3 回までです。本製品で転送した曲を本製品で削除すれば転送可能回数は戻りますが、他のパソコンで削除した場合は転送可能回数は戻りませんのでご注意ください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Audio Manager] → [Audio Manager] をクリックする

2 [プレーヤ] 画面で、[マネージャ] ボタン (  ) をクリックする

3 SD メモリカードをセットする



SD メモリカードのセット

☞ 「本節 2 SD メモリカードのセットと取り出し」

4 [→ PD / SD] タブで転送するファイルを選択し①、[追加] ボタンまたは [全追加] ボタンをクリックする②



5 [転送開始] ボタンをクリックする

転送が始まります。

[PD/SD プレイリスト] タブでは、SD メモリカードに取り込んだデータのプレイリストを作成できます。



「Audio Manager」の詳しい使いかた ☞ 『Audio Manager のヘルプ』

# 6

## USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB コネクタに接続します。

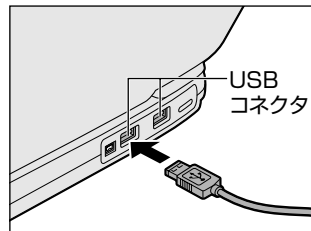
USB 対応機器は、電源を入れたまま、取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあげられます。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

### 接続

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む  
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。

取りはずすときは、USB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。



USB 対応機器についての詳細 ⇨ 『USB 対応機器に付属の説明書』



- 電気の供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- USB 対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。



- USB コネクタの数が足りない場合は、市販されている USB ハブを使用してください。ハブを使うと最大で 127 台の周辺機器をつなぐことができます。接続できる最大数はハブによって異なります。

# 7

## i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を接続する

\* i.LINK 内蔵モデルのみ

アイリンク アイトリアルイーイチサンキューヨン

i.LINK (IEEE 1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。  
i.LINK (IEEE 1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応 CD-R/RW ドライブ など

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』をご覧ください。

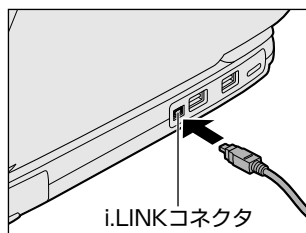
### i.LINK (IEEE 1394) 対応機器のご使用について

i.LINK (IEEE 1394) 対応機器を使用する場合、次の注意事項を必ず守ってお取り扱いください。

- i.LINK 対応機器を使用しデータ転送を行う場合、必ずデータ（データファイルや、ビデオカメラで撮影したテープ）のバックアップをお取りください。特に動画データ転送時は、パソコンの処理に負担がかかり、状態によってはコマ落ちが発生する場合があります。また、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時にはご注意ください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行なっている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。  
i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしはデータ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行なってください。

# 取り付け

- 1** ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む  
コネクタの向きを確認して差し込んでください。





- 2** ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

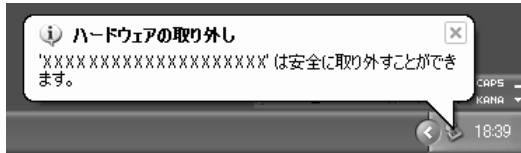


- i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行なっておりません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証いたしかねます。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）をご使用ください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 3m 以内の長さのケーブルをご使用ください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行なった場合、データの内容は保証いたしかねます。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。


## 取りはずし

### 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン (  ) をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす i.LINK 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン (  ) をクリックする



### 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く


-  ● デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

## i.LINK によるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート』をご覧ください。

### 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

### 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

-  ● i.LINK コネクタが用意されているパソコンでも、機種によっては接続できない場合があります。

# 8

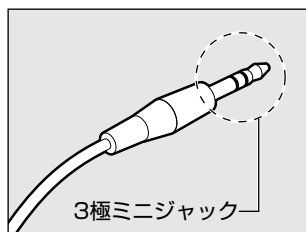
## マイクロホンを接続する

マイク入力端子に接続します。

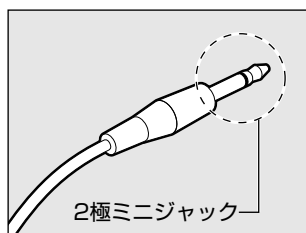
### 使用できるマイクロホン

本製品でご使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



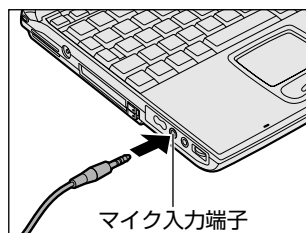
3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。



### 接続

#### 1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。





# 9

## ヘッドホンを接続する

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプをお使いください。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調節してください。



### ● マスタ音量の起動方法

[スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリック

### ⚠ 注意

- ・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。
- ・耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。



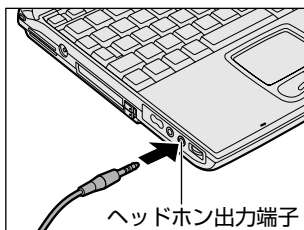
● 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

## 接続

### 1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。



# 10

## CRT ディスプレイを接続する

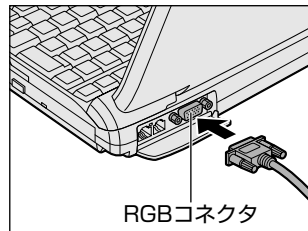
RGB コネクタに CRT ディスプレイを接続します。CRT ディスプレイは、パソコンの電源を切った状態で接続してください。

### 接続

1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開く

2 CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

### 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する





- 省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。

このとき、表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。したが、故障ではありません。



- 次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
  - ・ データの読み込みや書き込みをしている間  
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
  - ・ 通信を行なっている間  
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

## ■ 方法 1 – 画面のプロパティで設定する

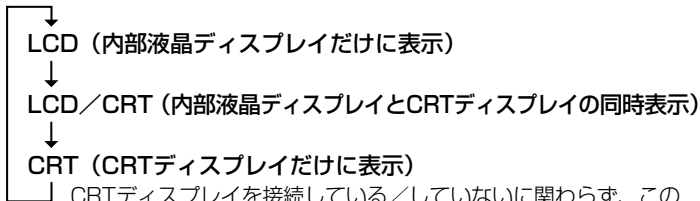
- 1 [コントロールパネル] を開き、[  デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [  画面] をクリックする  
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする
- 4 [表示デバイス] タブの [表示デバイス] で次のいずれかを選択する
  - 内部液晶ディスプレイだけに表示  
..... [LCD] ボタンをクリック
  - 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示  
..... [LCD] ボタンと [CRT] ボタン  
両方をクリック
  - CRTディスプレイだけに表示  
..... [CRT] ボタンをクリック

## ■ 方法 2 – (Fn) + (F5) キーを使う

- 1 (Fn) + (F5) キーを押す  
選択画面が表示されます。

## 2 (Fn)キーを押したまま、(F5)キーを押し直す

(F5)キーを押すたびに次の順序でメニューが切り替わります。




CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、この状態に切り替わります。CRTディスプレイが接続されていない場合も、内部液晶ディスプレイには何も表示されませんので、ご注意ください。


## 3 (Fn)キーと(F5)キーを離す

選択した設定になります。

(Fn) + (F5)キーを3秒間押し続けると内部液晶ディスプレイの表示に戻ります。

### ■ 方法3 - 東芝HWセットアップで設定する

1 [コントロールパネル] を開き、[  プリンタとその他のハードウェア ] をクリックする

2 [  東芝HWセットアップ ] をクリックする

3 [ディスプレイ] タブで [起動時の表示装置] を設定する

- 内部／外部を自動選択 ..... CRT ディスプレイだけに表示 (CRT ディスプレイ接続時)
- 内部／外部を同時使用 ..... 内部液晶ディスプレイと CRT ディスプレイの同時表示

## 表示について



- CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。



ビデオモードについて ⇨ 「付録 1- サポートしているビデオモード」

# 11

## LANへ接続する

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応したLAN インタフェース (LAN コネクタ) が内蔵されています。LAN コネクタにADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。

また、本製品のLAN コネクタにLAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN コネクタをご使用になる際の注意事項を説明します。

### LAN ケーブルの接続

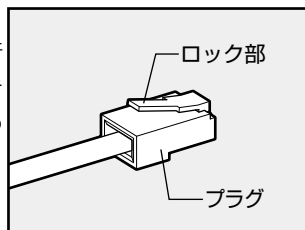
LAN インタフェースを100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。



- **カテゴリ** ● ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。カテゴリ 1 ~ 5 まであり、数字が高いほど品質が高い。10BASE-T ではカテゴリ 3 以上、100BASE-TX ではカテゴリ 5 のケーブルが使われる。



- LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

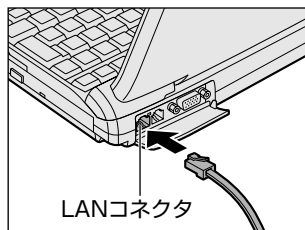


1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 パソコン本体背面のコネクタカバーを開く

3 LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

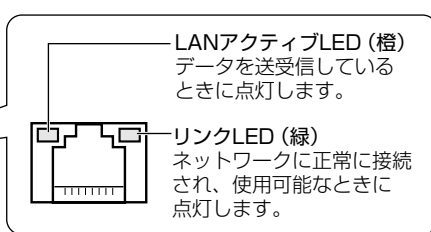
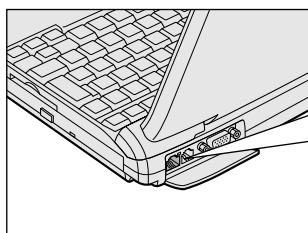


4 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ブロードバンド接続に必要なネットワーク機器や設定などについては、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。また会社や学校でネットワークを構築する場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

## LAN コネクタに関するインジケータ

LAN コネクタの両脇には、LAN インタフェースの動作状態を示す 2 つの LED があります。



## Windows のネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

ご購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

### 注意

- ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。
- ・コンピュータ名とワークグループは、ネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複するとエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

# 12

## メモリを増設する

増設メモリスロットに 256MB までの増設メモリを取り付けることができます。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご購入ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

### 取り付け／取りはずしのご注意

#### ⚠ 警告

- ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

#### ⚠ 注意

- ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
  - ・スタンバイ中
  - ・電源を切った直後  
電源を切った後 30 分以上たってから行うことをおすすめします。
- ・パソコン本体や増設メモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、増設メモリが正常に使用できなくなります。





- ネジをはずす際は、十字ねじ回しビット0番のドライバを使用してください。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。

## ■ 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

## 取り付け

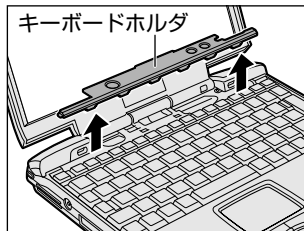
- 1 データを保存し、Windows を終了して電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 バッテリーパックを取りはずす



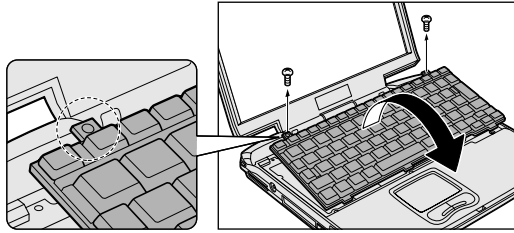
参照 3 バッテリーパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリーパックを交換する」

- 4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす

キーボードホルダ手前の両側にある切り欠き部に指をかけ、引き上げます。

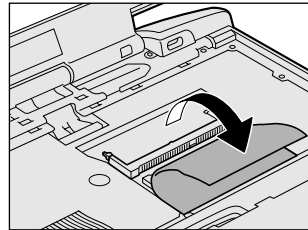


**5** キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す

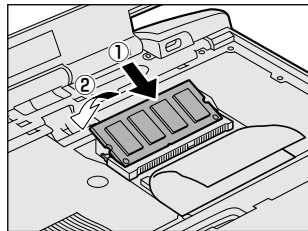


●キーボードの裏には、接続ケーブルがあります。接続ケーブルは、はずしたり、傷つけたり、無理な力を加えないでください。断線や接触不良の原因となり、キー入力ができなくなるおそれがあります。

**6** 増設メモリ部分のインシュレータをめくる



**7** 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②  
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。




**8** 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す


**9** キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

## 10 キーボードホルダを取り付ける

## 11 バッテリパックを取り付ける

 バッテリパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

 メモリ容量の確認について ⇨ 「本節 - メモリ容量の確認」


## 取りはずし

---

1 データを保存し、Windows を終了して電源を切る

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 バッテリパックを取りはずす

 バッテリパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリパックを交換する」

4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす

5 キーボード上部のネジ 2 本をはずし、キーボードを手前に裏返す

6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる



7 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす  
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す



9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

10 キーボードホルダを取り付ける

11 バッテリパックを取り付ける


 参照  バッテリパックについて ⇨ 「5章 2-3 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

 参照  メモリ容量の確認について ⇨ 「本節 - メモリ容量の確認」

## メモリ容量の確認

---

-  ● システムがメインメモリ領域の約 16MB 分を使用するため、「東芝 PC 診断ツール」や [システムのプロパティ] で表示されるメモリ容量は、実際の容量より少なく表示されます。

### ■ 「東芝 PC 診断ツール」で確認する

- ① [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
- ② [ヘルプとピックを選びます] の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ③ 左画面の [東芝 PC 診断ツール] をクリックする
- ④ [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ⑤ [メモリ] の数値を確認する

# 8章

## システム構成と パスワードセキュリティ



1	東芝HWセットアップ.....	260
2	セットアッププログラム.....	268
3	パスワードセキュリティ.....	284

# 1

## 東芝HWセットアップ

ハードウェアの設定を変更できます。

### 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[  プリンタとその他のハードウェア ] をクリックする
- 2 [  東芝HWセットアップ ] をクリックする

#### ■ [全般] タブ


セットアッププログラムのバージョンなどを表示します。

- [標準設定] ボタン  
「東芝HWセットアップ」の設定をご購入時の設定状態に戻します。
- [バージョン情報] ボタン  
「東芝HWセットアップ」のバージョン情報が表示されます。



## ■ 【パスワード】 タブ

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。

参照  パスワードについて ⇨ 「本章 3 パスワードセキュリティ」

## ■ 【デバイスの設定】 タブ

パソコンが起動したときにBIOSが初期化するデバイスを指定します。



### 【デバイスの設定】

- **全デバイス設定**  
すべてのデバイスを初期化します。
- **OS による設定（標準設定）**  
システムをロードするのに必要なデバイスのみ初期化します。それ以外のデバイスはシステムが初期化します。

## ■ 【プリンタ】 タブ

プリンタなどパラレルポートに接続する機器の設定をします。  
本製品では使用しません。

## ■ 【ポインティング装置】 タブ

タッチパッドやPS/2 マウスなどポインティング装置に関する設定をします。  
本製品では使用しません。


## ■ [ディスプレイ] タブ

パソコンが起動したときに表示する装置を指定します。



### 【起動時の表示装置】

- 内部／外部を自動選択（標準設定）  
システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されている場合は、外部 CRT ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部 CRT ディスプレイが接続されていない場合は、本体のディスプレイに表示します。
- 内部／外部を同時使用  
外部ディスプレイと本体のディスプレイの両方に表示します。

参照  CRT ディスプレイの接続 ⇨ 「7章 10 CRT ディスプレイを接続する」



## ■ [CPU] タブ

インテル®SpeedStep™テクノロジー搭載モバイルPentium® IIIプロセッサモデルのみ表示されます。

CPUに関する設定をします。



### 【プロセッサシリアル番号】

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- 有効にする
- 無効にする（標準設定）

### 【CPU周波数の設定】

- **ダイナミック切替モード（標準設定）**  
CPUの消費電力、周波数切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。
- **常時高速モード**  
CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- **常時標準モード**  
CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、標準周波数で動作します。

## ■ 【OSの起動】 タブ

OSの起動に関する設定をします。



### 【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。  
通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

### 【起動装置の選択メッセージ】

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

#### ● 表示する（標準設定）

メニュー起動メッセージを表示します。

電源を入れたら、次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

Press [F12] for the boot device selection menu

このメッセージが表示されている間に[F12]キーを押すと、起動するドライブの選択メニュー画面が表示されます。起動したいドライブに対応したキーを押すと、一時的にそのドライブを起動最優先ドライブに設定し、起動します。

選択するキーは次のようになっています。

- Ⓒキー ....スリムセレクトベイのCD-R/RW ドライブ、またはマルチドライブ（別売り）\*から起動します。
- Ⓓキー ....内蔵 LAN から起動します。
- Ⓔキー ....USB フロッピーディスクドライブから起動します。
- ①キー ....標準ハードディスクから起動します。
- ②キー ....セカンドハードディスク（別売り）から起動します。
- Ⓕキー ....PC カードハードディスクドライブ（別売り）から起動します。
- Ⓖキー ....通常の設定された起動ドライブから起動します。

\* スリムセレクトベイにCD-R/RW ドライブ、またはマルチドライブが取り付けられていない場合、使用できません。

なお、これらのキーによって [OS の起動] の設定は変更されません。



● 電源を入れたときや再起動時に、キーを押し続けた場合は、設定内容と違うドライブから起動することができます。

#### ● 表示しない

メニュー起動メッセージを表示しません。

#### 【HDD の起動】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- 標準 HDD → 増設 HDD（標準設定）
- 増設 HDD → 標準 HDD

#### ■ 【キーボード】 タブ

PS/2 コネクタに接続するキーボードに関する設定をします。  
本製品では使用しません。

## ■ [USB] タブ

USB 対応機器に関する設定をします。



### 【USB キーボード／マウス レガシーサポート】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- **有効にする（標準設定）**  
レガシーサポートを行います。ドライバなしでUSB キーボード、USB マウスが使用できます。
- **無効にする**  
レガシーサポートを行いません。

### 【USB フロッピーディスク レガシーサポート】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- **有効にする（標準設定）**  
レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- **無効にする**  
レガシーサポートを行いません。

## ■ [LAN] タブ

LAN 機能に関する設定をします。



### 【LANのウェイクアップ】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

- 使用する
- 使用しない（標準設定）

### 【内蔵LAN】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

- 使用する（標準設定）
- 使用しない

## 詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝HWセットアップ] を起動後、画面右上の **?** をクリックする  
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

# 2

## セットアッププログラム

セットアッププログラムとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。BIOS と呼ばれる場合もあります。


### セットアッププログラムをご使用になる前に

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行なってください。  
セットアッププログラムと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- ご使用のシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- セットアッププログラムで設定した内容は、電源を切っても消えませんが、内蔵バッテリーが消耗した場合は標準設定値に戻ります。

## 1 起動

### 1 (Esc)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、パスワードが登録されています。パスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

 パスワードについて ⇨ 「本章 3 パスワードセキュリティ」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

### 2 (F1)キーを押す

セットアッププログラムが起動します。

## 2 終了

### 終了方法

---

変更した内容を有効にして終了します。

**1** (Fn) + (→) キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

**2** (Y) キーを押す

設定内容が有効になり、セットアッププログラムが終了します。  
変更した項目によっては、再起動されます。

### 途中で終了する方法

---

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

**1** (Esc) キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

**2** (Y) キーを押す

セットアッププログラムが終了します。

### 3 セットアッププログラムの画面

セットアッププログラムには次の2つの画面があります。

① MEMORY Total = XXXXXXXKB

② PASSWORD Not Registered

③ BATTERY Battery Save Mode = Full Power

④ PERIPHERAL Pointing Devices = Auto-Selected  
Ext Keyboard "Fn" = Disabled  
Parallel Port Mode = ECP  
Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)

⑤ DISPLAY Power On Display = Auto-Selected  
LCD Display Stretch = Disabled

OTHERS Power-up Mode = Boot  
CPU Cache = Enabled  
Level 2 Cache = Enabled  
Processor Serial Number = Disabled \*1  
Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable \*1  
Auto Power On = Disabled

⑥

⑦ BOOT PRIORITY Boot Priority = HDD-FDD-CD-ROM-LAN  
HDD Priority = Built-in HDD-Second HDD  
Power On Boot Select = Enabled

↑↓←→: Select items   **Space,BkSp**: Change values   **PgDn,PgUp**: Change pages  
**Esc**: Exit without saving   **Home**: Set default values   **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

\*1 インテル®SpeedStep™テクノロジー搭載モバイルPentium® III プロセッサモデルのみ表示されます。

⑧ CONFIGURATION Device Config. = Setup by OS

⑨ I/O PORTS Serial = COM1(3F8H/IRQ4)  
Parallel = LPT1(378H/IRQ7/CH3)

⑩ PCI BUS PCI BUS = IRQ11

⑪ LEGACY EMULATION USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled  
USB-FDD Legacy Emulation = Enabled

PC CARD Controller Mode = Auto-Selected

⑫

⑬ DRIVES I/O Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)  
Select Bay = Secondary IDE(170H/IRQ15)

⑭ PCI LAN Built-in LAN = Enabled

↑↓←→: Select items   **Space,BkSp**: Change values   **PgDn,PgUp**: Change pages  
**Esc**: Exit without saving   **Home**: Set default values   **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

参照 設定項目の詳細について ⇨ 「本節 4 設定項目」



基本操作は次のとおりです。

### ■ 変更したい項目を選択する

(↑)、(↓)、(←)、(→)キーを押す

項目が移動します。

画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。

### ■ 項目の内容を変更する

(Space)または(BackSpace)キーを押す

項目の内容が変わります。

### ■ 画面を切り替える

(Fn)+(↓)または(Fn)+(↑)キーを押す

次の画面または前の画面に切り替わります。

### ■ 設定内容を標準値にする

(Fn)+(←)キーを押す

次の項目以外は、設定が標準設定になります。

- PASSWORD
- Hard Disk Mode
- Write Policy

## 4 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。  
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

### ① MEMORY—メモリ容量を表示する

---

#### 【Total】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

### ② PASSWORD—パスワードの登録／削除をする

---

 ユーザパスワードの登録／削除の方法 ⇨ 「本章 3-2 ユーザパスワード」

#### 【Not Registered】

パスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

#### 【Registered】

パスワードが設定されているときに表示されます。

### ③ BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする




---

#### 【Battery Save Mode】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

-  ● Windows を使用している場合は「東芝省電力ユーティリティ」の設定が有効になり、「Battery Save Mode」の設定は無効になります。
- 「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、  キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)	●Low Power	●User Setting (設定例)
Processing Speed = High CPU Sleep Mode = Enabled Display Auto Off = 03Min. HDD Auto Off = 03Min.	Processing Speed = Low CPU Sleep Mode = Enabled Display Auto Off = 03Min. HDD Auto Off = 03Min.	Processing Speed = Low CPU Sleep Mode = Enabled Display Auto Off = 03Min. HDD Auto Off = 03Min.
LCD Brightness = Bright* <sup>1</sup> Super-Bright* <sup>2</sup>	LCD Brightness = Semi-Bright* <sup>1</sup> Bright* <sup>2</sup>	LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注) LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

\* 1 バッテリ駆動時

\* 2 ACアダプタ使用時

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

### ● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High ..... 処理速度を高速に設定する
- ・ Low ..... 処理速度を低速に設定する

### ● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。


- ・ Enabled ..... 電力消費を低減する
- ・ Disabled ..... 電力消費を低減しない

### ● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled ..... 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

- **HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)**  
設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。  
自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。  
ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。
  - **LCD Brightness (LCD 輝度)**  
画面の明るさを選択します。
    - ・ Semi-Bright ..... 低輝度に設定する
    - ・ Bright ..... 高輝度に設定する
    - ・ Super-Bright ..... 最高輝度に設定する
  - **Cooling Method (CPU 熱制御方式)**  
CPU の熱を冷ます方式を選択します。  
CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。
    - ・ Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。
    - ・ Performance ..... CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動し CPU に風を送り、冷やします。
    - ・ Battery Optimized ..... CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。
-  ● CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。高熱状態が続く場合は、自動的にレジューム機能を効かせた状態で電源を切り、パソコンを故障から守ります。

## ④ PERIPHERAL—HDD や外部装置の設定をする

---

### 【Pointing Devices (ポインティング装置)】

タッチパッドを使用するか、外部 PS/2 マウスを使用するかを設定します。

本製品では使用しません。

### 【Ext Keyboard "Fn"】

PS/2 外部キーボードの(Fn)キーの割り当てをします。  
本製品では使用しません。

### 【Parallel Port Mode】

パラレルポートモードの設定をします。  
本製品では使用しません。

### 【Hard Disk Mode】

ハードディスクのモードを設定します。  
項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行なってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値)  
..... 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE ..... Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する  
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

## ⑤ DISPLAY—表示装置の設定をする

### 【Power On Display】

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) ... システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
- ・ Simultaneous ..... 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する



- SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

## 【LCD Display Stretch】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Enabled ..... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled (標準値) ..... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

## ⑥ OTHERS—その他の設定をする

---

### 【Power-up Mode (レジューム機能)】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) ..... レジューム機能を無効にする
- ・ Resume ..... レジューム機能を有効にする  
「Resume」を選択すると、  
【OTHERS】の最後に「Panel Power On/Off」が表示されます。

### 【CPU Cache (キャッシュ)】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。  
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled ..... キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled (標準値) ..... キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

#### ● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back (標準値) ..... 書き込み方式を「Write-back」に設定する  
キャッシュメモリにデータを書き込み、  
キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through ..... 書き込み方式を「Write-through」に設定する  
キャッシュメモリとメインメモリに、  
同時にデータを書き込みます。

**【Level 2 Cache】**

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) ..... 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled ..... 2次キャッシュを使用しない

**【Processor Serial Number】**

インテル®SpeedStep™テクノロジー搭載モバイルPentium® IIIプロセッサモデルのみ表示されます。

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Disabled (標準値) ..... 無効にする
- ・ Enabled ..... 有効にする

**【Dynamic CPU Frequency Mode】**

インテル®SpeedStep™テクノロジー搭載モバイルPentium® IIIプロセッサモデルのみ表示されます。

- ・ Dynamically Switchable (標準値)  
..... CPUの消費電力・周波数切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。
- ・ Always High ..... CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- ・ Always Low ..... CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

**【Auto Power On (タイマ・オン機能)】**

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

- ・ Disabled (標準値) ..... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能がとも設定されていない
- ・ Enabled ..... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。  
アラームの時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。  
時と分、月と日の切り替えは(↑)(↓)キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled ..... 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled ..... 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能はPCカードタイプのモデムで使用できます。

- ・ Enabled ..... リングインジケータ機能を使用する
- ・ Disabled ..... リングインジケータ機能を使用しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake-up on LAN 機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

- ・ Enabled ..... Wake-up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled ..... Wake-up on LAN 機能を使用しない

【Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能)】

ディスプレイの開閉による電源の入/切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- ・ Enabled ..... パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ..... パネルスイッチ機能を使用しない



## ⑦ BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

### 【Boot Priority】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。  
通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
  - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
  - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
  - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
  - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
  - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- } 指定のドライブ順に起動する

電源を入れたときや再起動時に、次のキーを押し続けると、一時的に設定内容と違うドライブから起動できます。

これらのキーによって設定は変更されません。

- ・ **C**キー ..... スリムセレクトベイのCD-R/RWドライブ、またはマルチドライブ (別売り)\*から起動する
- ・ **N**キー ..... 内蔵LANから起動する
- ・ **U**キー ..... USB フロッピーディスクドライブから起動する
- ・ **1**キー ..... 標準ハードディスクから起動する
- ・ **2**キー ..... セカンドハードディスク (別売り) から起動する
- ・ **P**キー ..... PC カードハードディスクドライブ (別売り) から起動する
- ・ **D**キー ..... 通常の設定された起動ドライブから起動する

\*スリムセレクトベイにCD-R/RWドライブ、またはマルチドライブが取り付けられていない場合、使用できません。

### 【HDD Priority】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → Second HDD (標準値)  
..... 標準ハードディスク→セカンドハードディスクの順で起動する
- ・ Second HDD → Built-in HDD  
..... セカンドハードディスク→標準ハードディスクの順で起動する

## 【Power On Boot Select】

電源を入れたときに、メニュー起動メッセージを表示するかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ..... メニュー起動メッセージを表示する
- ・ Disabled ..... メニュー起動メッセージを表示しない

「Enabled」を選択すると、電源を入れたときに次の「メニュー起動メッセージ」が1、2秒間表示されます。

"Press [F12] for the boot drive selection menu."

このメッセージが表示されている間に(F12)キーを押すと、次のメニューが表示されますので、起動したいドライブのキーを押します。キーを押すと一時的に起動優先順位を最上位に設定し、システムを起動します。下記以外のキーを押しても、システムは起動しません。

Select Boot Device :

[C] : CD-ROM

[N] : Network (LAN)

[U] : USB Floppy Drive

[1] : Primary Hard Drive (Built-in)

[2] : Secondary Hard Drive (Select Bay)

[P] : PC Card Hard Drive

[D] : Default SYSTEM SETUP Device

Press [C] , [N] , [U] , [1] , [2] , [P] or [D] .

- ・ **C**キー ..... スリムセレクトベイのCD-R/RWドライブ、またはマルチドライブ (別売り)\*から起動する
- ・ **N**キー ..... 内蔵LANから起動する
- ・ **U**キー ..... USB フロッピーディスクドライブから起動する
- ・ **1**キー ..... 標準ハードディスクから起動する
- ・ **2**キー ..... セカンドハードディスク (別売り) から起動する
- ・ **P**キー ..... PCカードハードディスクドライブ (別売り) から起動する
- ・ **D**キー ..... 通常の設定された起動ドライブから起動する

\*スリムセレクトベイにCD-R/RWドライブ、またはマルチドライブが取り付けられていない場合、使用できません。

## ⑧ CONFIGURATION

---

### 【Device Config.】

ブート時に BIOS が初期化するデバイスを指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要なデバイスのみ初期化する  
それ以外のデバイスは OS が初期化します。この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices ..... すべてのデバイスを初期化する

## ⑨ I/O PORTS (I/O ポート)

---

### 【Serial】

シリアルポートの割り当てを設定します。

本製品では使用しません。

### 【Parallel】

パラレルポートの割り当てを設定します。

本製品では使用しません。

## ⑩ PCI BUS—PCI バスの割り込みレベルを表示する

---

### 【PCI BUS】

PCI バスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

## ⑪ LEGACY EMULATION—USB 対応機器の設定をする

---

### 【USB KB/Mouse Legacy Emulation】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ..... レガシーサポートを行う  
ドライバなしで USB キーボード／  
USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled ..... レガシーサポートを行わない

## 【USB-FDD Legacy Emulation】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ..... レガシーサポートを行う  
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。  
フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled ..... レガシーサポートを行わない



- [USB-FDD Legacy Emulation] が [Enabled] に設定されていても、⑦ Boot PRIORITY の [Boot Priority] の設定値が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、標準ハードディスクから起動します。

## ⑫ PC CARD—PC カードのモードを選択する

---

### 【Controller Mode】

PC カードのモードを選択します。

「Device Config.」が「All Devices」の場合に変更できます。

- ・ Auto-Selected(標準値) ... Windows XP、Windows Me、Windows 98、Windows 95、Windows 2000 など、プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ Card Bus/16-bit ..... Windows NT (Ver.4 以下) を使用しているとき、または、Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible ..... Windows NT (Ver.4 以下) を使用しているとき、または、Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない 16-bit PC カードを使用する場合に選択します。

## ⑬ DRIVES I/O—HDD やスリムセレクトベイの設定

---

### 【Built-in HDD】

標準ハードディスクのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

### 【Select Bay】

スリムセレクトベイに取り付けたドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

## ⑭ PCI LAN

---

### 【Built-in LAN】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) ..... 有効にする
- ・ Disabled ..... 無効にする

# 3

## パスワードセキュリティ

### 1 パスワードセキュリティ機能について

本製品では、パスワードを設定できます。

#### ● Windows のログオンパスワード

Windows にログオンするとき

インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき



参照 インスタントセキュリティ機能

☞ 「1 章 8-1- (Fn)キーを使った特殊機能キー」

#### ● ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード

電源を入れたとき、スタンバイ状態、休止状態から復帰するとき

Windows のログオンパスワードについては、『オンラインマニュアル』をご覧ください。

本節では、ユーザパスワードの設定方法、キーフロッピーディスク\*1 の作成方法、スーパーバイザパスワードプログラムについて説明します。

\*1 ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。

通常はユーザパスワードを登録してください。

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人のために用意されています。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、セットアッププログラムの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードに関して、次の表をご覧ください。

ユーザパスワード		スーパーバイザパスワード
設定方法	キーフロッピーディスクの作成	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東芝HWセットアップ</li><li>・ セットアッププログラム</li></ul> <p>※ 「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。</p>	セットアッププログラム	スーパーバイザパスワード設定ツール ☞ 「本節 3 スーパーバイザパスワード」





- パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

## パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「\*\*\*\* (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。

よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [ ] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全角文字 (2バイト文字)</li> <li>・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など</li> <li>・ 単独のキーで入力できない (入力するときに <b>Shift</b> キーなどを使用する) 文字 【例】   (バーチカルライン)、&amp; (アンド)、~ (チルダ) など</li> <li>・ ¥ (エン)  キーや  キーを押すと ¥ が入力されます。</li> </ul>	

## 2 ユーザパスワード


ユーザパスワードの登録/削除は、通常「東芝HWセットアップ」で行なってください。


キーフロッピーディスクを作成したい場合は、「セットアッププログラム」で登録してください。また、その場合フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクと、USBフロッピーディスクドライブが必要です。

### ユーザパスワードの登録

---


#### ■ 東芝HWセットアップでの登録

1 [コントロールパネル] を開き、[  プリンタとその他のハードウェア ] をクリックする

2 [  東芝HWセットアップ ] をクリックする

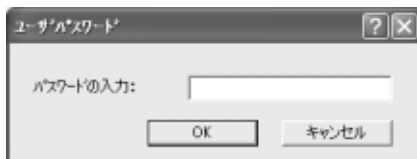
3 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする

パスワードが登録されている場合は、削除してからもう1度登録してください。

 パスワードの削除 ⇨ 「本項 ユーザパスワードの削除」

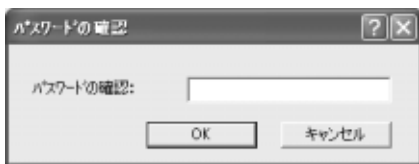
4 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードは10文字以内で入力します。入力すると1文字ごとに\*が表示されます。





- 5 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする



- 6 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

### ■ セットアッププログラムでの登録

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD（1.44MB）フロッピーディスクとUSB フロッピーディスクドライブが必要です。あらかじめご用意ください。



- キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

- 1 **[Esc]** キーを押しながら電源を入れる  
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。
- 2 **[F1]** キーを押す  
セットアッププログラムが起動します。
- 3 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、**[Space]** または **[BackSpace]** キーを押す  
パスワード入力画面が表示されます。  
パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。



パスワードの削除方法 ⇨ 「本項 ユーザパスワードの削除」

#### 4 パスワードを入力する

パスワードは 10 文字以内で入力します。入力すると 1 文字ごとに\*が表示されます。



入力できる文字 ⇨ 「本節 1- パスワードとして使用できる文字」

#### 5 (Enter) キーを押す

1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

#### 6 2 回目のパスワードを入力する

パスワードは手順 4 と同じパスワードを入力してください。入力すると 1 文字ごとに\*が表示されます。

#### 7 (Enter) キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順 4 からやり直してください。

#### 8 パスワードの設定が終了したら、(Fn) + (→) キーを押す

次のようなメッセージが表示されます。

<p>Are you sure ? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot. Insert password service disk if necessary.</p>
--

#### 9 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして(Y)キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに(Y)キーを押します。

セットアッププログラムの画面に戻るには(N)キーを押します。手順 10 はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

## 10 キーフロッピーディスクを作成する



キーフロッピーディスクの使いかた

☞「本節 4- ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)



- ① セットされているフロッピーディスクが 2HD の場合は①キーを、2DD の場合は②キーを押す  
フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。  
フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

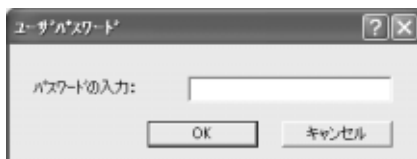
Remove the password service disk, then press any key.

- ② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する


## ユーザパスワードの削除

### ■ 東芝 HW セットアップでの削除

- 1 [コントロールパネル] を開き、 プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2  東芝 HW セットアップ] をクリックする
- 3 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- 4 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする




## 5 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

-  ● パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。  
この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行なってください。

### ■ セットアッププログラムでの削除

- 1 **[Esc]**キーを押しながら電源を入れる  
「Password=」と表示されます。
- 2 パスワードを入力し、**[Enter]**キーを押す  
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。
- 3 **[F1]**キーを押す  
セットアッププログラムが起動します。
- 4 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、**[Space]**または**[BackSpace]**キーを押す  
パスワード入力画面が表示されます。
- 5 登録してあるパスワードを入力する  
入力すると1文字ごとに\*が表示されます。
- 6 **[Enter]**キーを押す  
パスワードが削除されます。  
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順5からやり直してください。

-  ● 入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行なってください。

## 3 スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。

「スーパーバイザパスワード設定ツール」は、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更をするためのユーティリティです。



- パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

### ■ 起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 [C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe] と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする  
詳しくは、「README.HTM」をご覧ください。

### ■ 「README.HTM」の起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 [C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM] と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

## 4 パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、電源を入れると、画面に「Password=」と表示されます。  
この場合は、次の手順で起動します。

- 1 設定したとおりにパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押す  
パスワードは大文字、小文字を区別しません。



- パスワードの入力ミスが3回繰り返された場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

### ■ ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 1 「Password=」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**(Enter)**キーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

- 2 パスワードを再設定する場合は、**(Y)**キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本項 パスワードの登録」の手順3以降を行なってください。再設定後、システムが再起動します。

パスワードを再設定しない場合は、**(N)**キーを押す


次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk,then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

### 【起動時にユーザパスワードを入力した場合】


スタンバイ状態、休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

-  ● スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。

### 【起動時にスーパーバイザパスワードを入力した場合】

スタンバイ状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、スーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードの入力は受け付けません。

休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

-  ● スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。





# 9章 日常の取り扱いとお手入れ

1	日常の取り扱いとお手入れ.....	296
---	-------------------	-----

# 1

## 日常の取り扱いとお手入れ

### ⚠ 注意

- ・お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- ・機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

### パソコン本体

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。  
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。  
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。  
温度 5 ～ 35℃、湿度 20 ～ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。  
直射日光の当たる場所  
非常に高温または低温になる場所  
急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）  
強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）  
ホコリの多い場所  
振動の激しい場所  
薬品の充満している場所  
薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

## 電源コード

---

電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取ってください。

## キーボード

---

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

飲み物など液体をこぼしたときは電源を切り、AC アダプタとバッテリーパックを取りはずしてから、お買い求めの販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。

## 液晶ディスプレイ

---

### ■ 画面のお手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかい素材のきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

### ■ サイドライト用 FL 管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用 FL 管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用 FL 管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。有償にて交換いたします。

## CD / DVD

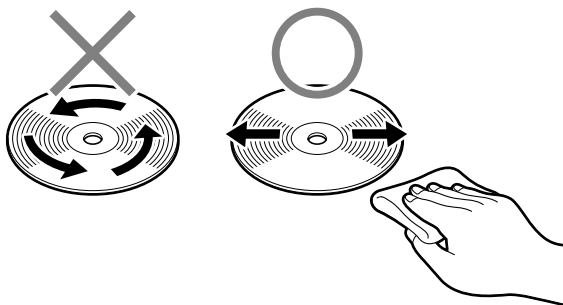
---

\* DVDは、スリムセレクトベイにマルチドライブ（別売り）を取り付けた場合のみ

CD / DVDの内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってお取り扱いください。

- CD / DVDを折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVDを読み込むことができなくなります。
- CD / DVDを直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVDの上に重いものを置かないでください。
- CD / DVDは専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVDを持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVDのデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVDが汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



## フロッピーディスクドライブ

---

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

## フロッピーディスク

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。  
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。  
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。  
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5~35℃	4~53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。  
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。
- 3.5型フロッピーディスクは当社の次の製品をお使いください。  
他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかったり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

製品番号	形式
M4293	2HD形式
M4216	2DD形式

## SD メモリカード

---

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。  
SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。  
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

## タッチパッド

---

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってから拭きます。

## データのバックアップについて

---

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどにコピーしておくことです。本製品は次のような場合、スタンバイ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。



- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- 長期間使っていないなかったために、バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）の充電量がなくなったとき
- 故障、修理、バッテリー交換のとき
- バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

## 持ち運ぶとき

---

持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを守ってください。

- 電源は必ず切ってください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。  
電源を切った後も、Disk  LED、Slim Select Bay  LEDが点灯中は動かさないでください。
- かばんなどにパソコンを収納するときは、必ず電源が切れていることをご確認ください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。  
やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。また、CD／DVD、SDメモ리카ードがセットされている場合は、取り出してください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。また、日の当たる自動車内に置かないでください。  
故障の原因になります。
- 持ち運ぶときはディスプレイを閉じてください。

## 仕様について

---

本製品の仕様は国内向けです。

### ■ AC アダプタの仕様

国外で本製品を使用する場合は、電源に合った電源コードをお買い求めください。AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力	AC100V、95VA、50/60Hz
出力	DC15V 3A

\* 国外でご使用の場合は、次のとおりです。

入力：AC100V～240V、0.95A～0.55A 50/60Hz

### ■ Bluetooth 通信機能の仕様

\* Bluetooth 内蔵モデルのみ

通信方式	Bluetooth Specification Ver.1.1
無線周波数帯	2.4GHz (2402～2480MHz)
変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
最大通信速度	約720kbps (非対称型通信時) 約430kbps (対称型通信時)
出力 *1	最大+4dBm (Power Class2)
受信感度 *1	-70dBm
通信距離	見通し10m *2

\*1 アンテナの効率は含まれません。

\*2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。



# 付録

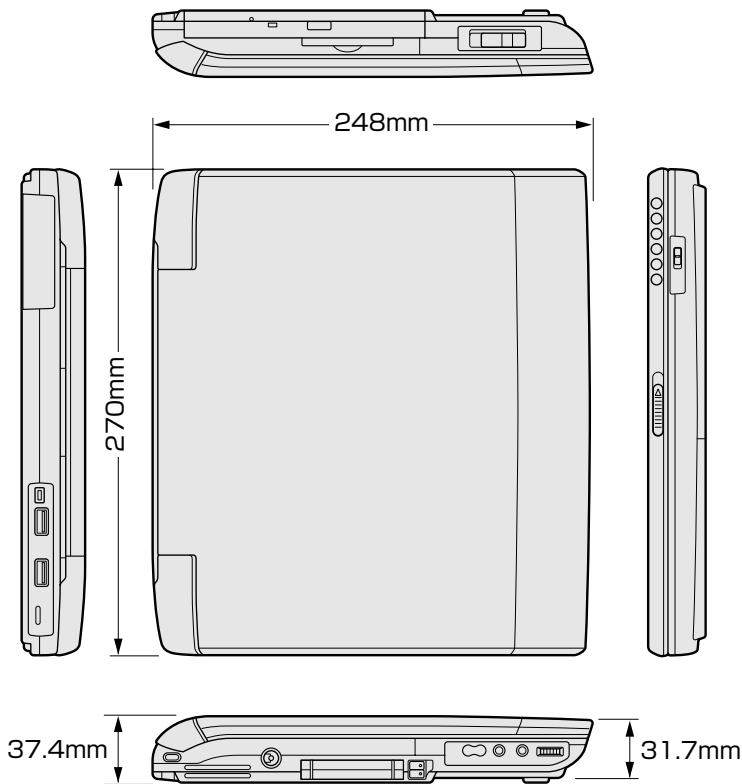
<b>1</b>	本製品の仕様 .....	304
<b>2</b>	各インターフェースの仕様.....	307
<b>3</b>	技術基準適合について .....	311

# 1

## 本製品の仕様

### 外形寸法図

\*数値は突起部を含みません。



## サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。

モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2.3		80 x 25字	8 x 8	16/256K	
0*,1*		40 x 25字	8 x 14	16/256K	
2*,3*		80 x 25字	8 x 14	16/256K	
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
2+,3+		80 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
4.5	VGA	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	70
6	グラフィックス	640 x 200ドット	8 x 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	70
7+		80 x 25字	8(9) x 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	60
E		640 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10		640 x 350ドット	8 x 14	16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	
12		640 x 480ドット	8 x 16	16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75 /85
—		800 x 600ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024ドット*1	—	256/256K	
—		1600 x 1200ドット*1	—	256/256K	60
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75 /85
—		800 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024ドット*1	—	64K/64K	
—		1600 x 1200ドット*1	—	64K/64K	60
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75 /85
—		800 x 600ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768ドット	—	16M/16M	60/75

\*1： LCDで表示する場合、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

## ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

ご使用の環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システム] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする
  - メモリマップ : [メモリ]
  - I/Oポートマップ : [I/O]
  - IRQ使用リソース : [IRQ]
  - DMA使用リソース : [DMA]

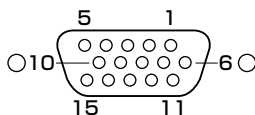
# 2

## 各インタフェースの仕様

### RGB インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	○
2	CGV	緑色ビデオ信号	○
3	CBV	青色ビデオ信号	○
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	○
14	-CVSYNC	垂直同期信号	○
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

#### コネクタ図



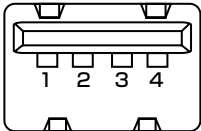
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

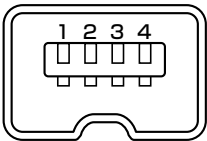
## USB インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			
			

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力  
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

## i.LINK (IEEE1394) インタフェース

\* i.LINK 内蔵モデルのみ

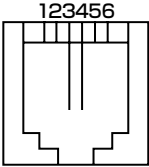
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	
コネクタ図			
			

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です  
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力  
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

## モデムインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	—	ノーコンタクト	
2	—	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	—	ノーコンタクト	
6	—	ノーコンタクト	

コネクタ図



The diagram shows a 6-pin connector with pins numbered 1 through 6 from left to right. Pin 1 is the leftmost, followed by pins 2, 3, 4, 5, and 6 on the right. The connector has a standard D-sub shape with a notch on the top edge.

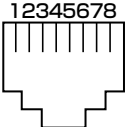
信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

## LAN インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

**コネクタ図**



The diagram shows a standard 8-pin RJ45 connector. The pins are numbered 1 through 8 from left to right. The connector has a characteristic shape with a notch at the bottom.

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力



# 3

## 技術基準適合について

### 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

### 瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

### 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

### 高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

### 国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



参照 3 省電力設定について 5 「5章 3 省電力の設定をする」

# FCC information

Product name : PORTÉGÉ 4000

Model number : PP400N

## FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

**WARNING:** *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port, and i.LINK port. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

*The modular cable that comes with the computer must be used to connect a modem.*

## FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

## Contact

**Address :** TOSHIBA America Information Systems, Inc.  
9740 Irvine Boulevard  
Irvine, California 92618-1697

**Telephone :** (949) 583-3000

**TOSHIBA**

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product:

PP400\* conforms to the following Standards:

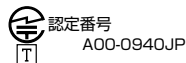
Supplementary Information: “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/05/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

## モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



### ●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2001 年 11 月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を經由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承願います。

## ●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

\* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。



- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。



モデム機能の詳細について ⇨ 『オンラインマニュアル』

## Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

## Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

## Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.  
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

## Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

## Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

## If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

## Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

## Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.



# Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
- Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA: 1353 11026A

# Notes for Users in Australia and New Zealand

## Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the country/region selection is set to Australia.

The use of other country/region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the country/region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the country/region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

## Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
  - b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
  - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
  - ATB0 (CCITT operation)
  - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  - ATS0=0 (not auto answer)
  - ATS6=4 (Blind dial delay)
  - ATS7=less than 90 (Time to wait to carrier after dialing)
  - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value 3 or 4. This ensures:
  - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
  - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

**NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM**

**General conditions**

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

# 松下 CD-R/RW ドライブ UJDA340

## 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

### ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格

EN60825で“クラス1レーザー機器”に分類されています。

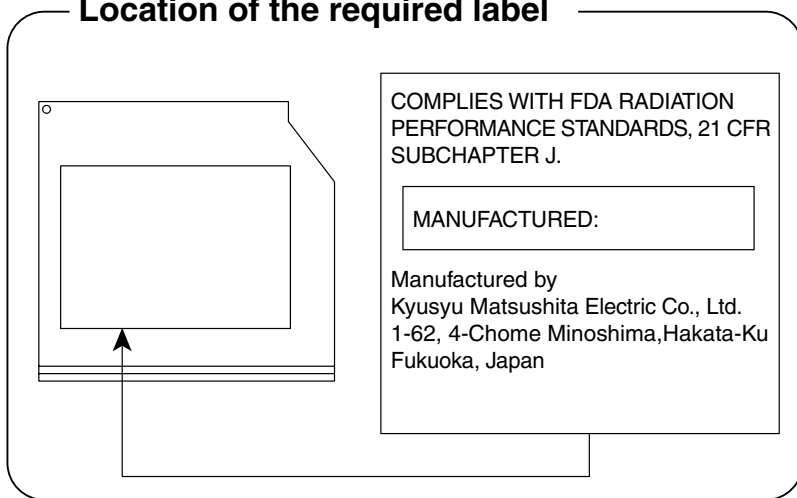
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

<b>CAUTION</b>	INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. JDGS0150ZA
<b>ATTENTION</b>	RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
<b>VORSICHT</b>	UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
<b>ADVARSEL</b>	USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGA UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
<b>ADVARSEL</b>	OSYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGA EKSPONERING FOR STRÅLEN.
<b>VARNING</b>	OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
<b>VARO!</b>	NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

## Location of the required label



# TEAC CD-R/RW ドライブ CD-W28E

## 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

### ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格

EN60825で“クラス1レーザー機器”に分類されています。

レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

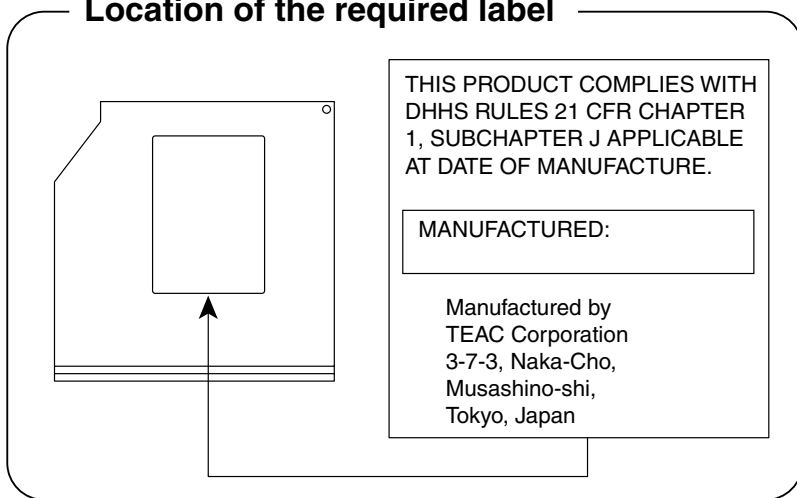
CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

<b>CAUTION</b>	INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
<b>ATTENTION</b>	RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
<b>VORSICHT</b>	UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
<b>ADVARSEL</b>	USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
<b>ADVARSEL</b>	USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
<b>VARNING</b>	OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
<b>VARO!</b>	NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。



## Location of the required label



# 松下 CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA720 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。  
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

## ⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用  
しています。

本装置の定格銘板に  
は、右記の表示がされ  
ています。

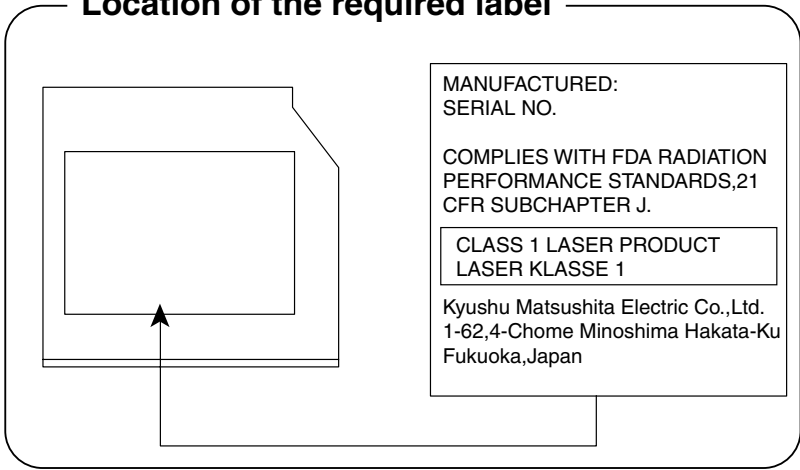
本装置はヨーロッパ共  
通のレーザー規格  
EN60825で“クラ  
ス1レーザー機器”に  
分類されています。  
レーザー光を直接被爆  
することを防ぐため  
に、この装置の筐体を  
開けないでください。

CLASS 1 LASER PRODUCT  
LASER KLASSE 1

<b>CAUTION</b>	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
<b>ATTENTION</b>	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
<b>VORSICHT</b>	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
<b>ADVARSEL</b>	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNNGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
<b>ADVARSEL</b>	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
<b>VARNING</b>	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
<b>VARO!</b>	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESIN.


2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

## Location of the required label



# さくいん

## (記号)

 キーを使った  
ショートカットキー ..... 51

## (A)

AC アダプタの仕様 ..... 302  
Alt キー ..... 44  
Arrow Mode LED ..... 45, 47  
Audio Manager ..... 239  
Auto Power On ..... 277

## (B)

BackSpace キー ..... 45  
BATTERY ..... 272  
Battery LED ..... 16, 170  
Battery Save Mode ..... 272  
Bluetooth ..... 192  
Bluetooth SIG ..... 193  
Bluetooth 通信機能の仕様 ..... 302  
Bluetooth 東芝ユーティリティ  
..... 195  
BOOT PRIORITY ..... 279  
Boot Priority ..... 279  
Break キー ..... 45  
Built-in HDD ..... 283  
Built-in LAN ..... 283

## (C)

Caps Lock LED ..... 44, 47  
Caps Lock 英数キー ..... 44  
CD-R/RW ドライブ ..... 54  
CD のセット ..... 57

CD の取り扱い ..... 298  
CD の取り出し ..... 58  
CONFIGURATION ..... 281  
Controller Mode ..... 282  
CPU Cache ..... 276  
CRT ディスプレイの接続 ..... 248  
Ctrl キー ..... 44

## (D)

DC IN LED ..... 16  
Del キー ..... 45  
Device Config. .... 281  
Disk LED ..... 16, 22  
DISPLAY ..... 275  
DRIVES I/O ..... 283  
DVD の取り扱い ..... 298  
Dynamic CPU Frequency Mode  
..... 277

## (E)

Enter キー ..... 45  
Esc キー ..... 44  
Ext Keyboard "Fn" ..... 275  
E メール ..... 100

## (F)

Fn キー ..... 45  
Fn キーを使った特殊機能キー .... 49

## (H)

Hard Disk Mode ..... 275  
HDD Priority ..... 279

## (I)

i.LINK コネクタ .....	14, 244
i.LINK 対応機器の取り付け .....	244
i.LINK 対応機器の取りはずし ...	245
i.LINK によるネットワーク接続 .....	245
I/O PORTS .....	281
IEEE1394 コネクタ .....	14
Ins キー .....	45
Internet Explorer .....	70
Internet Explorer 画面 .....	72
InterVideo WinDVD .....	219

## (L)

LAN アクティブ LED .....	252
LAN ケーブルの接続 .....	251
LAN コネクタ .....	14, 252
LCD Display Stretch .....	276
LEGACY EMULATION .....	281
Level 2 Cache .....	277

## (M)

MEMORY .....	272
MS-IME .....	52

## (N)

Not Registered .....	272
Numeric Mode LED .....	45, 47

## (O)

OTHERS .....	276
Outlook Express .....	102
Outlook Express 画面 .....	108

## (P)

Panel Power On/Off .....	278
Parallel .....	281
Parallel Port Mode .....	275
PASSWORD .....	272
Pause キー .....	45
PC CARD .....	282
PCI BUS .....	281
PCI LAN .....	283
PC カードスロット .....	12
PC カードの取り付け .....	233
PC カードの取りはずし .....	234
PERIPHERAL .....	274
Pointing Devices .....	274
PostPet .....	145
Power LED .....	16
Power On Boot Select .....	280
Power On Display .....	275
Power-up Mode .....	276
Processor Serial Number ....	277
PrtSc キー .....	45

## (R)

Registered .....	272
RGB コネクタ .....	14, 248

## (S)

SD Card LED .....	236
SD メモリカードスロット .....	14, 236
SD メモリカードのセット .....	236
SD メモリカードの取り扱い .....	300
SD メモリカードの取り出し .....	237
Select Bay .....	283

Serial .....	281
Shift キー .....	44, 45
Slim Select Bay LED .....	16, 22, 55, 170
Space キー .....	44
SysRq キー .....	45

## (T)

Tab キー .....	44
Total .....	272

## (U)

USB KB/Mouse Legacy Emulation .....	281
USB-FDD Legacy Emulation .....	282
USB コネクタ .....	14, 241
USB 対応機器の取り付け／ 取りはずし .....	241

## (W)

Win キー .....	44
--------------	----

## (ア)

アダプタからの取りはずし (セカンド バッテリーパック) .....	223
アダプタへの取り付け (セカンド バッテリーパック) .....	223
アドレス帳 .....	127
アドレス帳を修正する .....	131
アドレス帳を使って宛先を入力する .....	132
アドレスバー .....	73
アドレスを登録する .....	127, 128

アプリケーションキー .....	45
アロー状態 .....	47, 50
アンインストール .....	156

## (イ)

イジェクトホール .....	59
イジェクトボタン .....	56
インスタントセキュリティ機能 .....	49
インストール .....	156
インターネットボタン .....	13, 62, 70
インターネットメール .....	100

## (オ)

オーバーレイ機能 .....	50
オーバーレイキー .....	45
大文字ロック状態 .....	47, 48

## (カ)

解像度を変える .....	18
顔文字 .....	150
書き込み可能状態 (SD メモリカード) .....	238
書き込み可能状態 (フロッピーディスク) .....	227
書き込み禁止状態 (SD メモリカード) .....	238
書き込み禁止状態 (フロッピーディスク) .....	227
書き込みできる CD .....	56
カタカナ／ひらがなキー .....	45
かな入力 .....	53
画面のお手入れ .....	297
画面の輝度を変更する .....	18
漢字キー .....	44

## (キ)

キーシフトインジケータ .....	46
キーフロッピーディスク .....	284
キーフロッピーディスクの作成 .....	287
キーボード .....	12, 44
キーボードの取り扱い .....	297
休止状態 .....	180, 183

## (ク)

クリック .....	37
クリックする .....	33

## (ケ)

ケーブルを接続するとき .....	214
-------------------	-----

## (コ)

コネクタカバー .....	14
---------------	----

## (サ)

再起動 .....	187
サイドライト用FL管 .....	297

## (シ)

システムインジケータ .....	12, 16
使用できるDVD .....	218
使用できるPCカード .....	232
使用できるフロッピーディスク .....	226
使用できるマイクロホン .....	246
省電力アイコン .....	171

## (ス)

スーパーバイザパスワード .....	284
スーパーバイザパスワード 設定ツール .....	291
数字ロック状態 .....	47, 50
スクロールロック状態 .....	50
スタートページ .....	82
スタートページに戻る .....	83
スタンバイ .....	180, 181
ステータスバー .....	73
スピーカ .....	12
スピーカのミュート .....	49
スリムセレクトベイ .....	14
スリムセレクトベイラッチ .....	15, 216

## (セ)

セカンドハードディスク .....	220
セカンドハードディスクアダプタ .....	220
セカンドハードディスクアダプタ からの取りはずし .....	221
セカンドハードディスクアダプタ への取り付け .....	220
セカンドハードディスクの設定 .....	221
セカンドバッテリーパック .....	223
赤外線ポート .....	12
セキュリティロック・スロット .....	12, 67
セットアッププログラム .....	268
セットアッププログラムの画面 .....	270
セットアッププログラムの起動 .....	268

セットアッププログラムの終了	269
セットアッププログラムの設定項目	272
全角	52

## (ソ)

増設メモリスロット	12, 254
-----------	---------

## (タ)

タッチパッド	14, 32
タッチパッドの取り扱い	300
タッピング機能	37
ダブルクリック	37
ダブルクリックする	34

## (チ)

著作権保護	235
-------	-----

## (ツ)

ツールバー (Internet Explorer)	72
ツールバー (Outlook Express)	108
通風孔	12, 14

## (テ)

データのバックアップ	300
ディスクトレイ LED	56
ディスプレイ	12
ディスプレイ開閉ラッチ	12
電源コードの取り扱い	297
電源コネクタ	12
電源スイッチ	12

## (ト)

東芝 HW セットアップ	260
東芝コントロール	62
東芝省電力ユーティリティ	174
東芝ネットメニュー	95
特殊機能キー	51
時計用バッテリー	166
ドライバのインストール	212
ドラッグアンドドロップ	37
ドラッグアンドドロップする	35

## (ナ)

内蔵マイク	12
内蔵モデム	28
内蔵モデム用地域選択 ユーティリティ	29

## (ニ)

入力に関する制御キー	48
------------	----

## (ハ)

パスワードとして使用できる文字	285
パスワードの入力	292
パソコン本体の取り扱い	296
バッテリー駆動	164
バッテリー充電量の減少	172
バッテリーの充電時間	168
バッテリーの充電方法	167
バッテリーの充電量	170
バッテリーの使用できる時間	168
バッテリーの節約	166
バッテリーパック	15, 164
バッテリーパックの交換	173



バッテリー・リリースラッチ	14, 173
バッテリーを使っていないときの 充電保持時間	169
パネルスイッチ機能	186
半角	52
半角カタカナ入力状態	48
半/全キー	44

## (ヒ)

左ボタン	14, 32
表示可能色数	17
表示装置の切り替え	248

## (フ)

ファンクションキー	44
フォーマット (SD メモリカード)	239
フォーマット (フロッピーディスク)	228
プレビューウィンドウ	109
フロッピーディスクドライブ	224
フロッピーディスクドライブの 取り扱い	298
フロッピーディスクの取り扱い	299

## (ヘ)

ヘッドホン出力端子	12, 247
ヘッドホンの接続	247
変換キー	45

## (ホ)

ポインタ	32
ポインタを動かす	33
ボリュームダイヤル	12, 24

## (マ)

マイク入力端子	12, 246
マイクロホンの接続	246
マスタ音量	26
マルチドライブ	218

## (ミ)

右クリックする	34
右ボタン	14, 32

## (ム)

無変換キー	44
-------	----

## (メ)

メール	100
メールサーバ	101
メールで使用できる文字	148
メールボタン	13, 62
メールを転送する	120
メールを分類する	124
メールを返信する	118
メニューバー (Internet Explorer)	72
メニューバー (Outlook Express)	108
メモリの取り付け	255
メモリの取りはずし	257
メモリ容量の確認	258

## (モ)

文字キー	46
文字化け	148
モジュラージャック	14
持ち運ぶとき	301

## (ヤ)

矢印キー ..... 45

## (ユ)

ユーザパスワード ..... 284

ユーザパスワードの削除 ..... 289

ユーザパスワードの登録 ..... 286

## (ヨ)

読み込みできる CD ..... 55

読み込みできる DVD ..... 219

## (ラ)

ライトプロテクトタブ  
(SDメモ리카ード) ..... 238

ライトプロテクトタブ  
(フロッピーディスク) ..... 227

## (リ)

リッドスイッチ ..... 13

リリース情報 ..... 10

リンク LED ..... 252

## (ロ)

ローマ字キー ..... 45

ローマ字入力 ..... 53

## (ワ)

ワイヤレスコミュニケーション LED  
..... 16

ワイヤレスコミュニケーション  
スイッチ ..... 12, 197